したのかも存じません。

さてマルコ・ポーロが我が日本の事をそんな風に書いたといふのは、まるつきりでたらめであつたかといひますと、必しもさうはいへないのです。といふのは、宋の終り頃の、我が國と支那との貿易品を見ますと、日本の輸出品の中には沙金や金や眞珠などといふものがあります。かういふものを賣出す位ですから、本國には有り餘つて居ることゝ、南方の支那人は考へて居たのでせう。それゆゑマルコ・ポーロが、それをこんな言で傳へたといふのも、決して一口にめちやくちやの話だとも、申されないのであります。

その他この前後にはヨーロッパから、キリスト教の宣教師も來るし、商人も交易に來ました。ペルシヤ人やアラビヤ人で、大臣に

日本のことを西洋でジヤパン、ジヤポン、ヤパンなどといふのは、このチパングが、更になまつたものだといふことです。

なつたものもあります。また學問などでも、アラビヤから新しいものが傳へられ、天文學や曆學は、大いに進歩し、いゝ曆も出來ましたし、精巧な天文觀測の器械なども作られました。（この元の曆が後に我が日本に傳はり、其れを本にして、我が國では前よりも精確なものを作つたこともあります）。

石の下にも若草

漢民族はちようど重たい冷い石に、抑へつけられたやうに、蒙古人の強い武力に、屈服は致しましたが、然しそれでもその強い文化は衰へることなく、石の下にありながら、どこまでも伸びよう〳〵とする、若草のやうな活力をもちつゞけました。それはやがてこの時代を飾る文學ともなれば、美術ともなつたのであります。

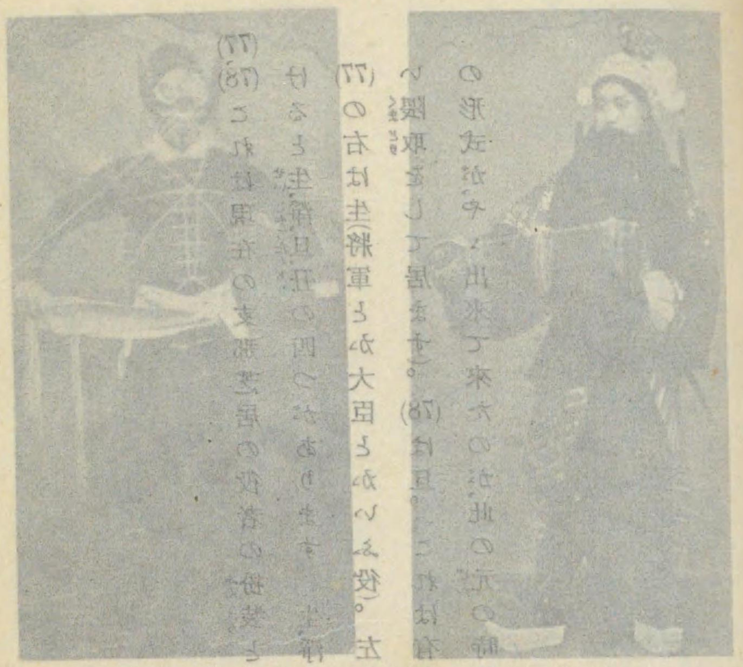
元の時には芝居の脚本や、小說が澤山に出來ました。支那の芝居はしぐさや立廻りよりも、歌が一番大切なものでありますから、脚本も歌が主です。その歌の調子その他のきめで北曲と南曲とがあります。その何れにも脚本の立派なのが出來るし、芝居の整つたのは、此の元の時です。小說には水滸傳と三國志演義といふのがあります。この二大傑作は、日本にも飜譯されたのがあります。實に痛快な支那式の豪傑や忠臣が、紙上にをどつて居る面白い作品です。

なぜ此の蒙古人が政治を行つたときに、かういふ文學が榮えたのでせうか。それは漢民族は「文章は經國の大業」などといつて、天

下國家を治めるために、文學を修めたのでしたが、蒙古人の天下になつては、それが思ふやうにいかない。それでその不平を洩らすために、かういふものを作つて、作中の人物に勝手なことをいはしたり、させたりしたのであるともいひます。また蒙古人は、むづかしい歴史を研究したり、書物を讀んで、漢民族の風俗や習慣を知るよりも、芝居を一目見て、面白くをかしく樂みの中に、すぐいろ〳〵の漢民族の社會の事情を、知ることを喜んだためでもありませう。さういふ風に二つのことがあつたところに、天才が出たのです。

藝術は天才が出なくてはだめです。

美術の方では、初期には畫にも書にも、すべてすぐれて居た趙子昂が居ました。繪畫は畫院などこそありませんでしたが、美しい



(77)

(78) 支那芝居の一場面

(77)、(78)これは現在の支那芝居の役者の扮装と舞臺面です。役者の役割は大きく別けると生、淨、旦、丑の四つがあります。生、淨は男役、旦は女役、丑は普通男役です。(77)の右は生(將軍とか大臣とかいふ役)。左は淨(仇役とか奸臣などで、顔は恐ろしい隈取をして居ます)。(78)は旦。これは有名な梅蘭芳です。かういふ今の芝居の形式が、やゝ出來て來たのが、此の元の時代なのです。

(77)支那の役者

(78)支那芝居の一場面

花鳥畫の名手には錢舜擧や王若水が居ましたし、顏輝といふ人は仙人の畫などに得意でした。山水畫は元の末に出た四人の名家(倪雲林、黃子久、王叔明、吳仲圭)によつて、南畫の方が發達し、非常に後世に影響することゝなりました。

漢民族は蒙古に苦められ、支配されはしましたが、そんな軍事的なことにはかまはず、えらい藝術家は、えらい藝術を作つたのであります。かういふところに漢民族のすぐれた點も存して居ます。さうしてやがてまた政治的にも、かういふ力が芽ぐんで來ました。

さて蒙古人は前にいつたやうに、實にすばらしい領土をもちましたが、その本家ともいふべき元では、世祖のときにもう財政が苦しくなり、後には稅を高くする、やたらに交鈔(紙幣)を出して、民を困

らせます、その上に皇帝は皇室の中から、選擧されることになつてゐましたから、代のかはり目には、政治上の爭がひどくなり、皇帝は野心家のおもちやとなる、それから皇族の間に内亂もあるし、又世祖の時に入つたラマ教といふチベットの佛教が、次第にはびこつて來て、その僧侶が横暴をして人民を苦めました。（世祖はラマ僧パシュパに命じて、パシュパ文字といふ新字を作らせました。これも漢字への對抗と思はれますが、すぐすたれてしまひました。）それでは政治が甘く行く筈はありません。かういふ元室のよわり方を見た漢民族は、この侵入者をおつぱらつて、支配權をとり戻さうとして立ちました。さういふ一人に朱元璋といふ人があつて、群雄を從へると共に、遂に大都を攻めおとし、元の皇帝を蒙古に逐ひ、一四三六年、皇帝の位に卽きました。これが明の太祖です。

(79) これは甘肅省敦煌の莫高窟にある元代ラマ教の刻銘です。中央の佛像は觀世音。其の上と左右にラマ教の六字の聖句オムマニパドメフムといふのを、諸種の文字で記してゐます。莫高窟と書かれた下の二列は、上がデヴァナガリ(サンスクリットの一種)、下がチベット文字。縦の右の二行のうち、右は漢字でオムマニパドメフムの音を現はしたもの、左は前に云つた西夏文字。左の二行中、右は元の世祖が作らせたパシュパ文字、左はウイグル文字で、何れも此の聖句の音を示したものです。

(80) これは元の交鈔即ち紙幣です。支那では宋のとき四川地方で一種の紙幣が使用され始めました。女眞族の金國では、政府が之れを發行して、全國的に使用させることゝしました。交鈔といふ名も金時代に起つたのです。元では盛に之れを發行使用させたが、餘りに濫發したゝめ、其のねうちをおとしてしまひ、遂には通用しないやうになりました。今の紙幣は横長ですが、昔はかういふやうに縦のものでした。我が江戸時代の藩札などいふものも、形こそ小さいがすべてかういふ縦長でした。

(79) 敦煌莫高窟のラマ教聖句の石刻

(80) 元代の交鈔(紙幣)

二　新世界からの光

——明の時代——

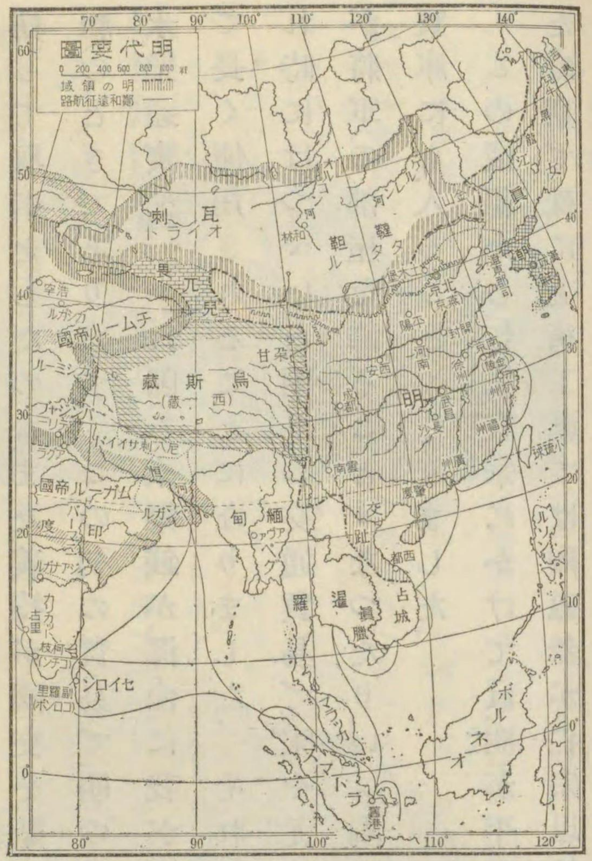
永樂錢

元を滅した明の太祖は、南方の片田舎の貧乏人の子で、お寺の坊さんになつたこともありますが、法衣をすてゝ武器をとり、一かどの大將となり、遂に皇帝の位に卽いた人です。都を金陵（後の南京）にさだめ、蒙古人によつてかきまはされた支那を、もとのやうに建て直さうと、政治の上にも學問の上にも、心をくばりました。

元の衰へて來たころ、朝鮮半島の高麗では、權臣の間に勢力爭ひ

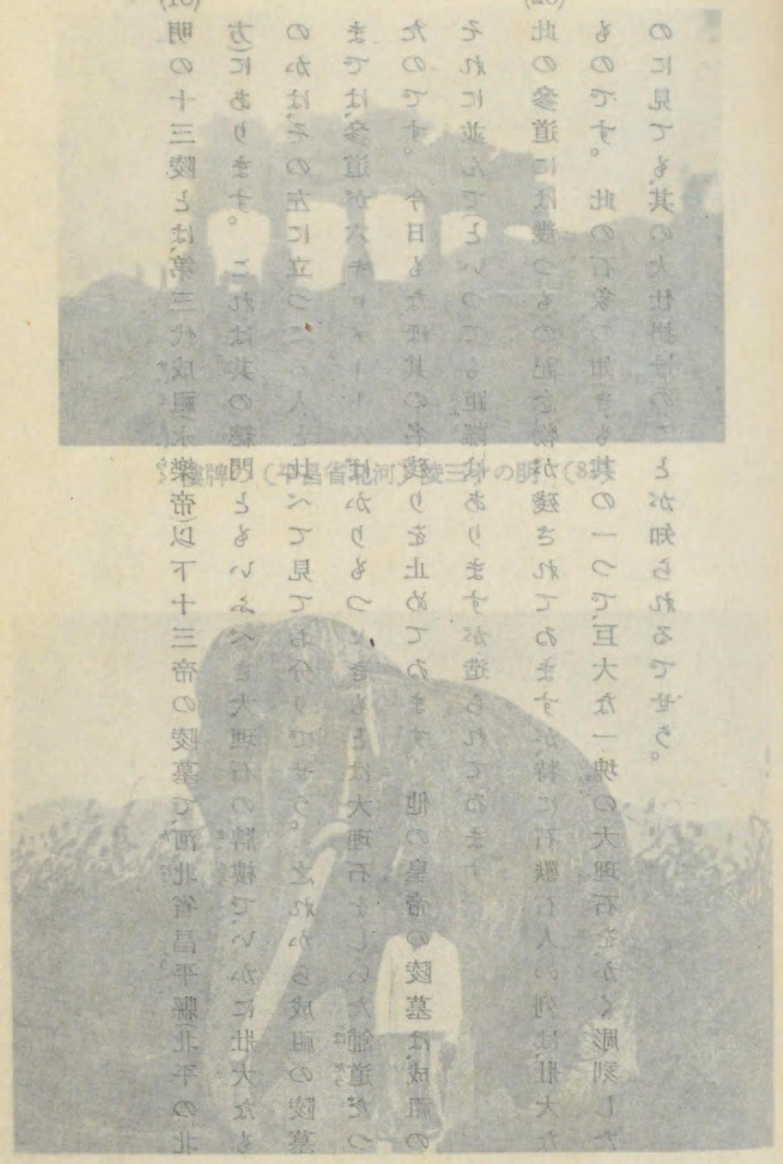
などが起つて、政が亂れてまゐりました。　明が元に代ると、此の新大國に附くかどうかといふことで、爭も大きくなりましたが、將軍李成桂は、其の一派から推されて、つひに國王の位に卽き、明に使を出して好を修めました。　明の太祖は國號を選んで朝鮮とし、つひで成桂を國王に封じて、其の屬國としました。　李成桂は朝鮮の太祖。　今の李王家の先祖です。

さて明は第二代の惠帝の時になつて、其の叔父の燕王棣といふ、北方の强い大名が野心を起し、金陵を攻めて惠帝の位を奪ひ、都を燕京にうつして之れを北京といひ、金陵を南京といふことにしました。　これが三代目の成祖です。　成祖は大志のあつた君で、北では蒙古に逃げた元の子孫を征伐し、南は遠く、南洋から印度洋方面に、宦官の鄭和を將として度々多くの軍艦を出して、明の威光を輝かしました。（今日の南洋に於ける支那人の勢力といふものは、實にすばらしいものですが、この成祖の南洋威服は、さういふ活動をさせる、一つの機會を與へたものでありました）。

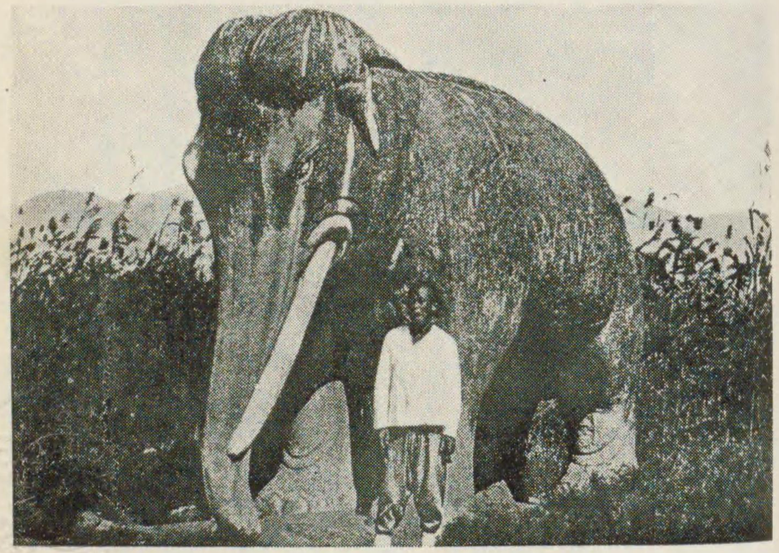


貿易も行はれました。足利義滿が國の耻をも忘れて、日本國王と稱して取引をしたのも、また義持が國交を斷つたのも、みなこの成祖のときであります。この初の貿易で、明の當時の通貨であつた、永樂通寶（永樂といふのは成祖の年號です）即ち永樂錢が、澤山に我が國に入つて來て、後まで長く使用されることになりました。それから後、なほ時にはきれ時にはつゞいた、明との交通貿易で、宋や元時代の名畫などが、我が將軍の部屋を飾ることゝなつたり、いゝ陶器や磁器が、諸大名の寶庫にも、入ることゝなりました。

この成祖から仁宗、宣宗にかけては、明が平和を樂むことの出來た時期で、殊に美術工藝では、陶磁器が仁宗以後に、大いなる發達をして、精巧なものが作り出されました。



樓牌の（平昌省北河）陵三十の明　(81)



象石の上同　(82)

(81)明の十三陵とは、第三代成祖(永樂帝)以下十三帝の陵墓で、河北省昌平縣北平の北方にあります。これは其の總門ともいふべき大理石の牌樓で、いかに壯大なものかは、その左に立つてる人と比べて見てお分りでせう。之れから成祖の陵墓までは、參道が六キロメートルばかりもつゞき、もとは大理石をしいた舖道だつたのです。今日もなほ其の名殘りを止めてゐます。他の皇帝の陵墓は、成祖のそれに並んでゐますが、特に石獸石人の列は、壯大なものです。此の石象の如きも其の一つで、巨大な一塊の大理石を、かく彫刻したのに見ても、其の大仕掛けのことが知られるでせう。

(82)此の參道には幾つもの記念物が殘されてゐます。

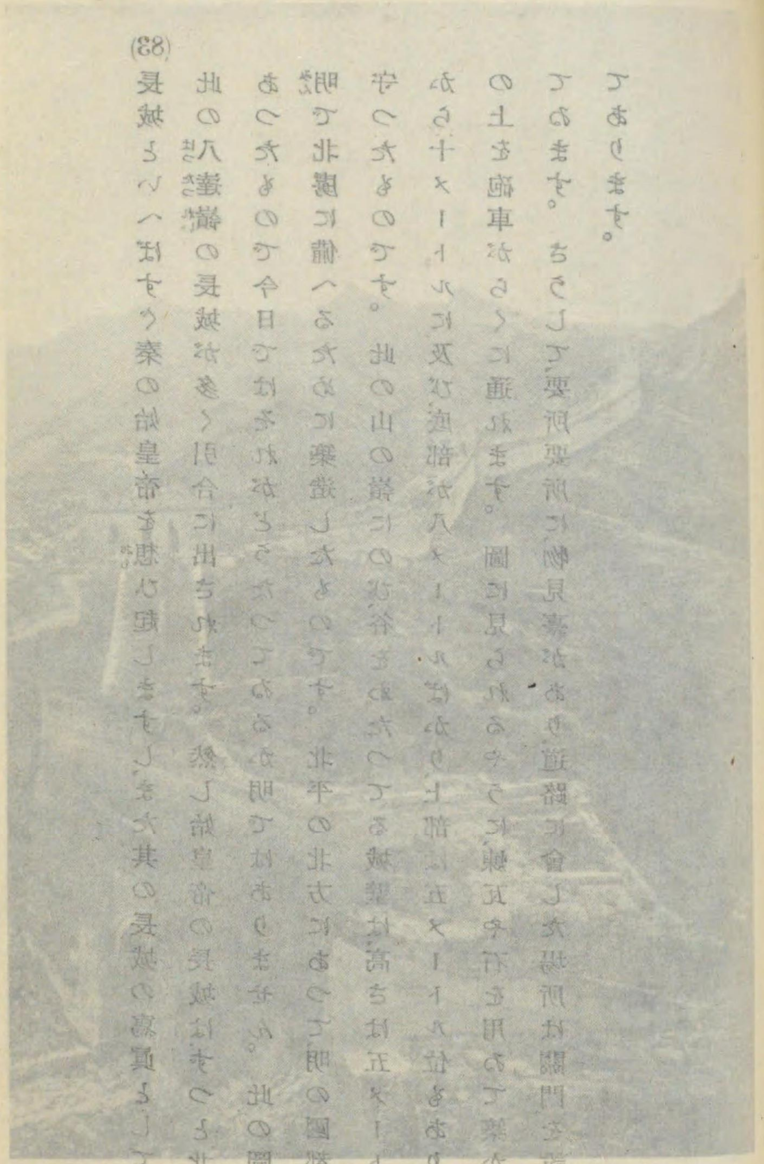
南倭北虜

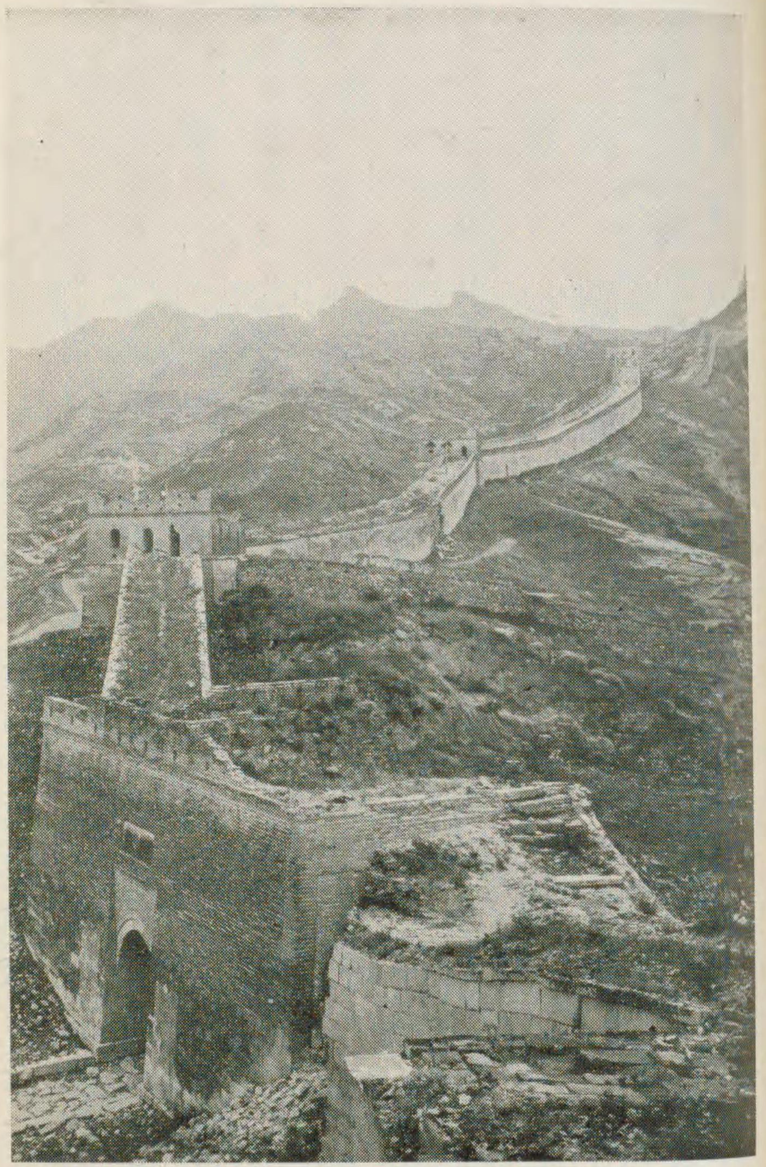
明は其の後いろ〳〵の災難に苦められました。北の蒙古にはオイラットといふ部族が、勢力を得て來て、明の國境を荒らしたので、英宗といふ皇帝は、親征しましたが、却てとりこにされました。その後憲宗、孝宗の間には、萬里の長城の修繕をして、北方に備へると共に、運河をも開いて、國内の交通運輸の便をも開きました。

オイラットはその後、一まづ抑へることが出來ましたが、更に蒙古にはタタール族が頭をあげて來て、その酋長のアルタンは、世宗のとき、數十年にわたつて明を脅しました。其の侵入は主に山西

で、下つては北京に迫つたこともあります。この蒙古の酋長は、年老いてから、ラマ教の信者になつたので、その長い間の侵略を中止しました。けれども、明のうけた損害は大變で、當時の人々はこれを北虜といつて、非常に恐れたものでした。

此の北方の蒙古人の侵略の甚しかつた頃に、南方の海岸では、また海賊の禍が烈しくなりました。此の海賊は最初わが日本人がやつたので、明では一口に倭寇（倭とは支那人が、我が國を呼ぶ名です）といひ、また前の北虜に對して、之れを南倭ともいつて、南北の二大災害として恐れました。いま此の海賊の起りを考へますと、元寇などの反動で、我が國民の中には、支那に敵意をもつた者もありましたし、或は海外に出て一仕事しようと、支那朝鮮との貿易に、乗り出した者もありました。





(83) 河北省八達嶺附近の長城

(83)長城といへばすぐ秦の始皇帝を想ひ起しますし、また其の長城の寫眞としては、此の八達嶺の長城が多く引合に出されます。然し始皇帝の長城はずつと北にあつたもので今日ではそれがどうなつてゐるか明ではありません。此の圖は明で北虜に備へるために築造したものです。北平の北方にあつて、明の國都を守つたものです。此の山の嶺にのび、谷をわたつてる城壁は、高さは五メートルから十メートルに及び、底部が八メートルばかり、上部は五メートル位もあり、其の上を砲車がらくに通れます。圖に見られるやうに、煉瓦や石を用ゐて築かれてゐます。さうして、要所要所に、物見臺があり、道路に會した場所は關門を設けてあります。

ところがいろ〳〵の事情で、思ふやうに取引が出來なかつたり、或は先方の官吏や商人の惡計にかゝつて、商品のたゞ取りをされてしまふと、いふやうなことも起つたので、其の復讐を企てゝ、海岸を荒らす者も出て來たのです。さういふ事實は、既に元の末に見られましたが、明になると、我が足利幕府は明からの依賴で、其の取締りをしたので、いくらか下火になりました。それが此の世宗の頃になつて、また烈しくなつたのです。明では倭寇といつて、我が日本人に惡名を負はせてゐますが、實際は當時の海賊は、日本人三に支那人七といふやうに、支那の海賊が主となつてゐて、其の親分の中には、我が九州の平戸に住んで、指揮をしてゐたものもありました。かういふ海賊は、少いときは數十人、多いときには千人もの者

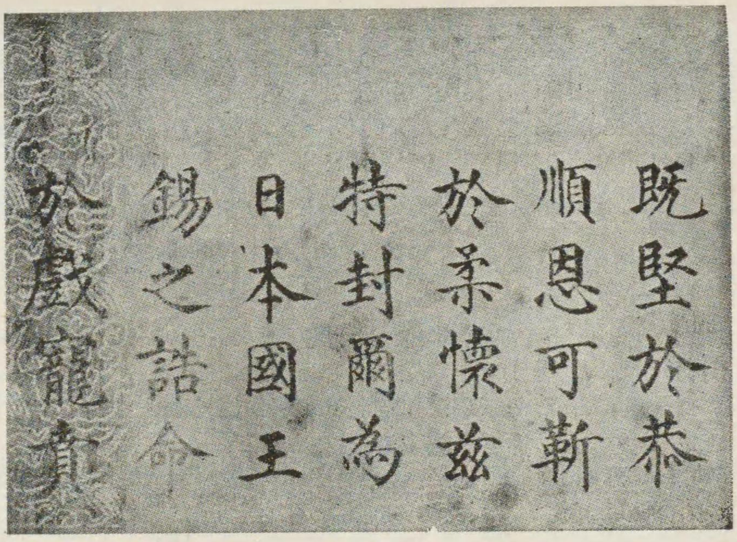
が一隊となつて、不意に海岸の都市を襲ひ、放火殺人強盗などをやつて、獲物をとつては、また船に逃げ帰つて、あと白浪と、海上に消え失せてしまふのです。時には六七十人で、海岸から内地深く入り、八十日ばかりの間に、四千人餘の人を殺し、物を掠めたといふやうな記錄も、殘されてゐますし、また裸體に三尺の日本刀をさしこんで、あばれまはつたこともあつたなどとも、傳へられてゐます。

かういふ有様でしたから、世宗は如何にもして、之れを平定したいと、心をくだいた結果、或は海賊船を破り、或は謀を以て其の頭目を殺して、其の災を除くことを得ました。

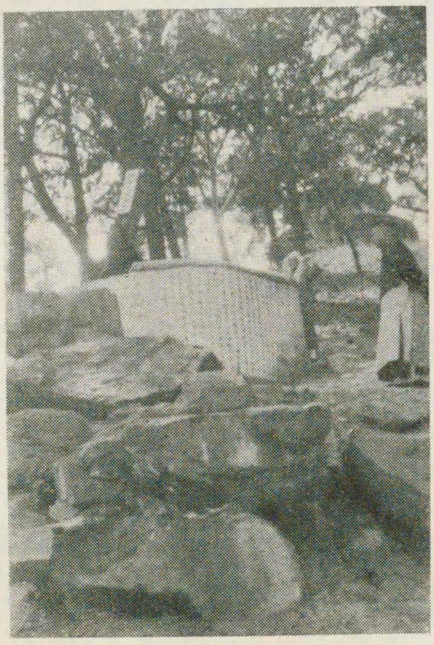
皇帝の悲み

(84) これは我が豊臣秀吉の朝鮮征伐の媾和が成立した後、明の神宗から、秀吉に贈つた冊書で、「爾を封じて日本國王と爲す」といふ無禮な文句のあつたものです。これで秀吉は怒つて、再征を命ずることゝなりました。賴山陽は其の詩の中に「相公(秀吉)怒つて裂く明の冊書」とうたひましたが、たゞの巻紙などと違つて、立派な織物で、なか〳〵裂くことは出來なかつたのでせう。現在ちやんと殘つてゐます。ここには其の一部を示しました。

(85) 明の皇帝の最後の氣の毒なことは、本文で一言しましたが、毅宗の最後の場所は、今の北平の舊皇城内の景山にあります。遺蹟として保存されてゐますが、之れを訪れるものは、三百年の後、當時をしのんで涙なきを得ません。


既堅於恭
順恩可靳
於柔懷茲
特封爾爲
日本國王
錫之誥命
欽戴龍章

(84) 豐臣秀吉に贈つた明の冊書



(85) 明の毅宗最後の地

明は世宗の終りに、南倭北虜の災から、やつと免れましたが、この間に受けた傷はとても直りませんでした。それに神宗（世宗の孫）のときには、屬國であつた朝鮮が、我が豐臣秀吉に攻められたので、援兵を送りました。いはゆる秀吉の朝鮮征伐は、もと〳〵朝鮮が目的ではなく、明を征する案内をさせようとしたところ、朝鮮が之れを拒んだために、あゝいふことになつたのです。然し明としては朝鮮を見すてゝおくわけには行かず、之れがために非常な費用をつかひました。そのため前々からよくなかつた財政が、一層ひどくなつたので、其の補ひをするために、税を重くしたり、新しい税を作つてみましたが、それは悪い役人が、わるいことをする道具に、都合がよかつたゞけで、人民は苦むばかりでした。何しろこの神宗とい

ふ皇帝は、その長い治世の半分ばかり――二十四年間――といふものは、一度も大臣を呼んで、政治の有様がどうだとも、聞かれなかつたといふことですから、世の亂れるのも無理は御座いません。

その時いまの安東省興京に居た、滿洲民族の一酋長に、ヌルハチ(清の太祖)といふものが出て、近くの諸部落を從へて皇帝を稱し、奉天に都して、南へ下る準備をしました。其の子太宗になつて國を清と號して、いよ〳〵勢を張り、蒙古にも朝鮮にも勢力をのばし殊に朝鮮へは二度も兵を出して、つひに之れを屬國としました。

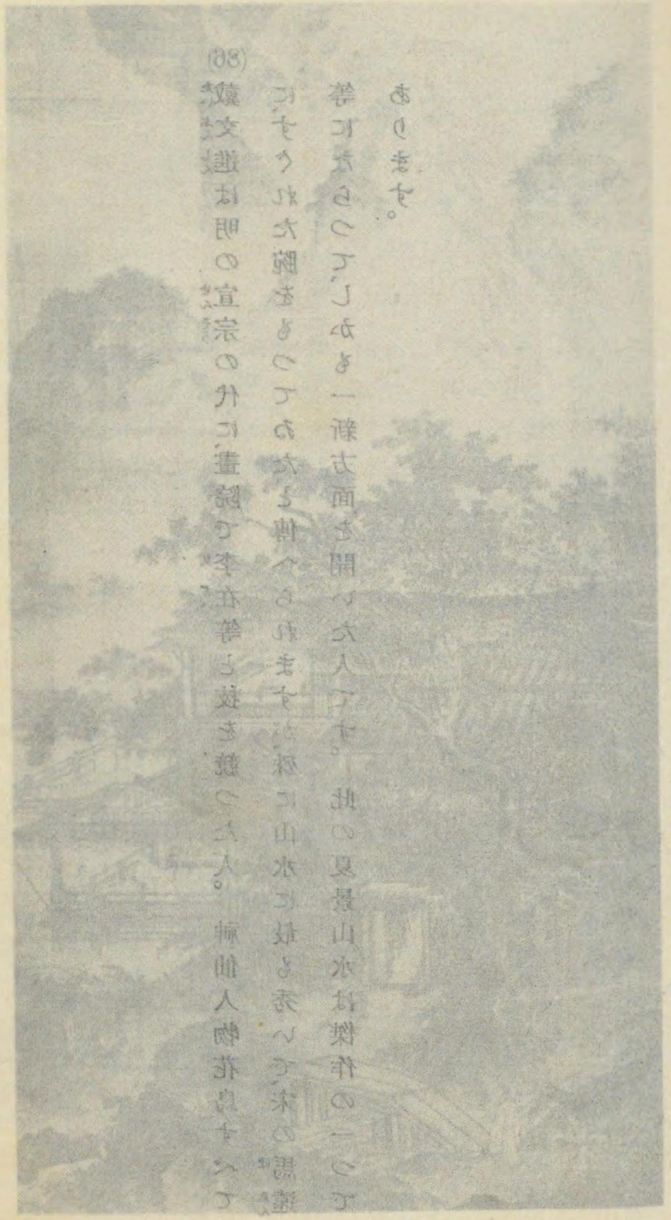
かく北方の外民族が、強い勢力を張つて來たときに、明の朝廷には、心から國を思ふ大臣も少く、宦官が勝手なことをする、官吏は徒黨を作つて、反對黨を苦めることばかり考へる、學者はくだらない理窟ばかりをいひあひ、これも仲間をつくつて、爭ひをするといふ有樣でした。人民こそいゝ迷惑で、そのため生活は不安になる一方、飢饉があつても、天災があつても、たゞ死をまつばかり。これで騷動が起きなければ、それは不思議です。明の末は殊に流賊といつて、かういふ不安におそはれた人民などが、こゝに一團、かしこに二團、と野心家に指揮されて、天下を荒らしまはるものが、非常な數になりました。その親分には八金剛、橫天星、上天龍、老狗々などゝ、いろ〳〵恐ろしさうな名があります。そのうち闖王李自成といふのが、最も勢が強くなり、遂に一六四四年三月（我が國では明正天皇の正保元年。將軍は德川家光。）には北京を圍み、之れを陷れました。

北京の運命がきはまつたとき、毅宗はまづ皇子等を外戚に托し

て、城外に出し、皇后には自殺をさせ、内親王には「おん身は何とて我が家に生れたか。なまじ皇女なればこそ、かゝるうき目にもあふものよ」と之れを刺し、御自分もまた自殺されたと傳へられてゐます。これほどあはれな皇室の最後は、類が少ないでせう。これで明は滅びてしまひます。

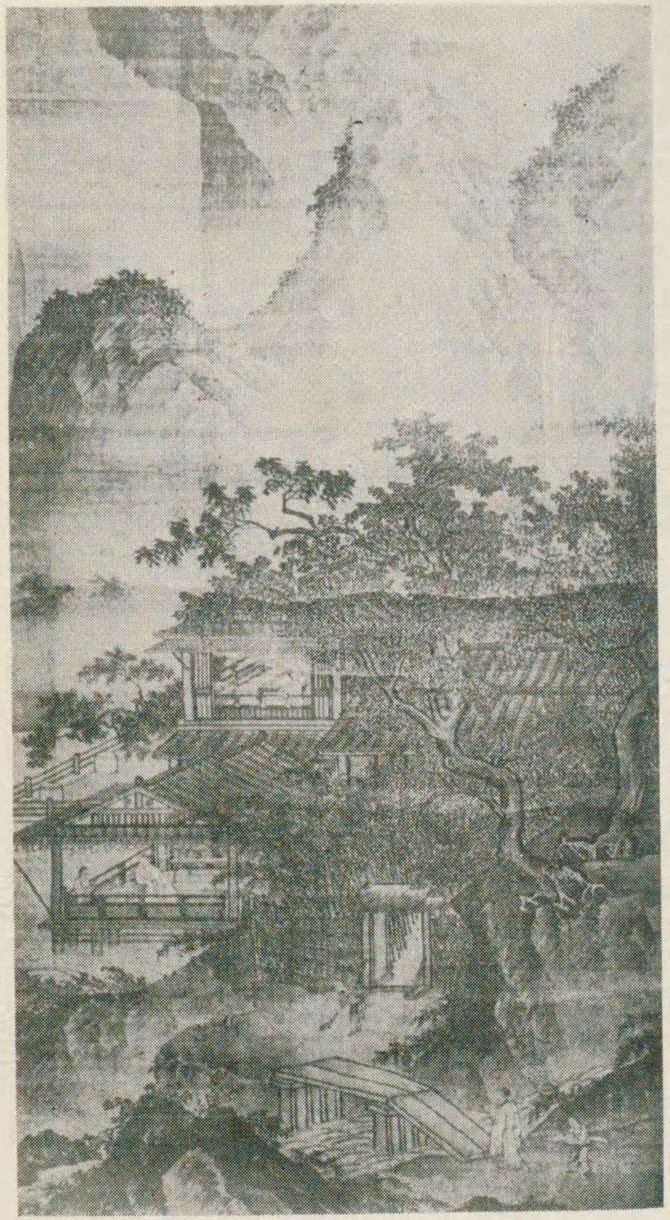
キリスト教の福音

蒙古人を退けて、漢民族の天下を取り戻した此の明では、制度や學問その他多くのことを、唐や宋の昔に復舊しようとしました。畫院が再興されたのもその一つです。それは成祖から宣宗の間が盛で、花鳥畫には邊文進、山水には戴文進や李在（日本の畫聖とい



(86) 明の戴文進筆夏景山水圖

（眞）



(86) 明の戴文進筆夏景山水圖

て、城外に出し、皇后には自殺をさせ、内親王には、おん身は何とて我が家に生れたか。なまじ皇女なればこそ、かゝるうき目にもあふものよ」と之れを刺し、御自分もまた自殺されたと傳へられてゐます。

(86) 戴文進は明の宣宗の代に、畫院で李在等と技を競つた人。神仙人物花鳥すべてに、すぐれた腕をもつてゐたと傳へられますが、殊に山水に最も秀いで、宋の馬遠等にならつて、しかも一新方面を開いた人です。此の夏景山水は傑作の一つであります。

キリスト教の福音は、蒙古人を退けて、漢民族の天下を取り戻した此の明では、制度や事物その他多くのことを、唐や宋の昔に復舊しようとしました。畫院が再興されたのもその一つです。それは成祖から宣宗の間が盛で、花鳥畫には邊文進、山水には戴文進や李在、日本の雪舟といふ

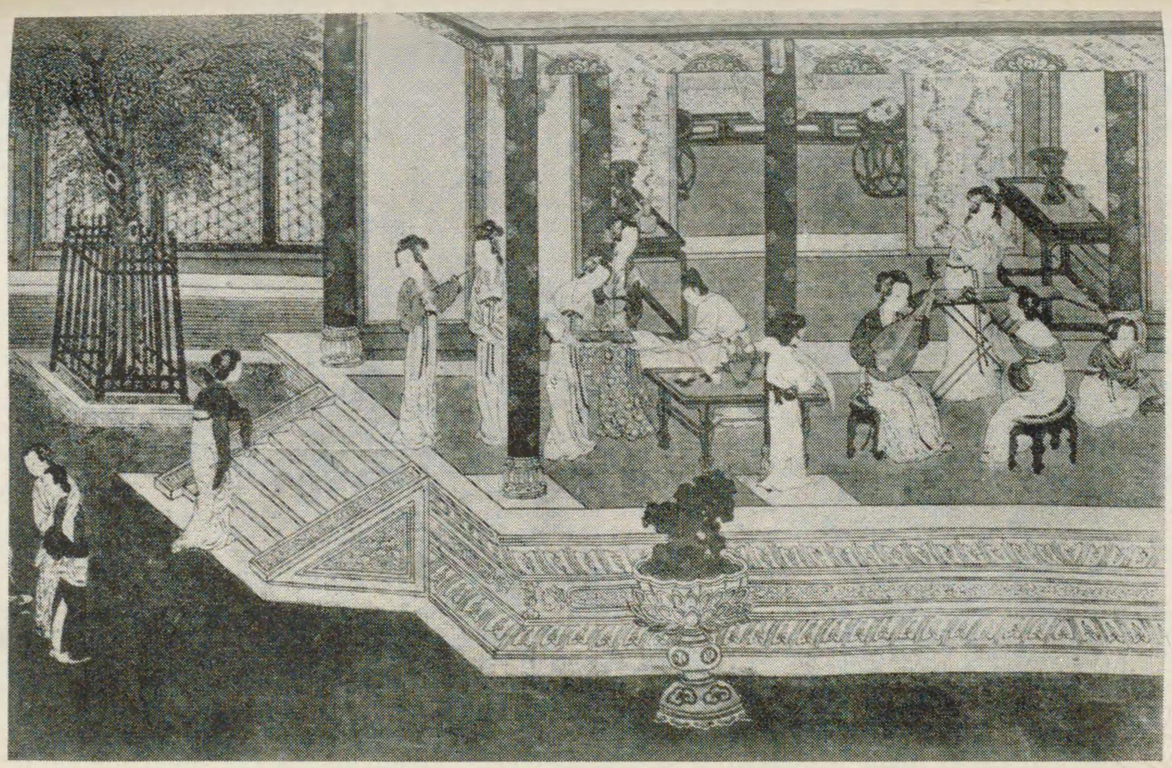
はれた雪舟の先生です）などが、これを飾つた人です。畫院の畫は宋の時のやうに、北宗畫の系統に屬するものでありました。此の他に北宗畫の山水をかいた畫家には、周東村、唐伯虎などがあります。明末には山水畫に沈周石田や文徵明が出ました。文徵明は書にも有名でしたが、董其昌といふやはり書畫ともに、名手として知られた人と共に、南宗畫の勢力を盛にしました。山水畫の南北の系統を大に主張したのはこの時からです。周東村の弟子の仇英は山水畫もよくしましたが、殊に歷史風俗畫に新しい方面を開き、美人畫の一つの型を始めて、後人に大きい感化を與へました。美人畫といへばすぐ仇英の名が擧げられる位です。

次に書物の編纂なども盛でしたが、中にも成祖の勅命で編輯し

た永樂大典といふ一種の百科辭典は、一部が二萬二千八百七十七巻、一萬一千九百九十九册から成り、本文はすべて見事な肉筆で書かれました。儒學の方面には宋の朱子の知識第一ともいふべき説の流行に對して、王陽明が出て、知行合一の説を立てたことは、重大な出來事の一つでした。この説も我が國に傳へられ、德川時代の學問の上に一つの勢力をつくりました。文學では小説も戲曲も名作がありましたが、西遊記（日本文の譯もあります）といふのが最も有名です。これは唐の玄奘のインドの巡禮をたねにして、支那式の神様や仙人や、怪物が出て來て、魔法くらべをしたりなどして、面白い舞臺面を、それからそれへと見せてくれます。孫悟空といふお供の猿の活動は、最も痛快なものです。

工藝の方面で最も重要なのは、陶磁器の發達であります。今ま

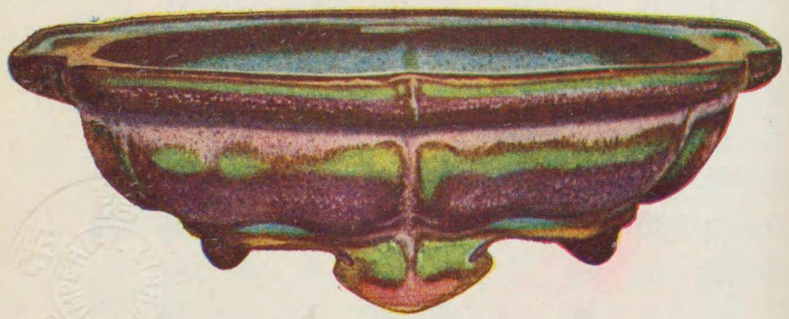
(87)仇英は周東村の弟子で、宋、元の諸名家の作を研究し、北宗派の山水に巧に、また鳥獸人物樓閣すべてに秀でた才筆の人でありました。殊に風俗畫美人畫には、獨歩の畫人とされて居ます。此の圖はロンドンの大英博物館にある、宮廷風俗を描いた圖卷の一部です。



(87) 明の仇英筆宮廷風俗圖卷

(88)明の磁器の一つの型式として、萬曆時代の精巧な赤繪の花瓶を示します。本文でいつたやうに、宋の時代に支那の磁器は、注意すべき發達がありまして、(89)に示した均窯や、青磁などの見事なものも作り出されました。が、それは主として釉薬の變化による微妙さに過ぎませんでした。それが元を經て明になると、複雑な五彩を以て繪畫的文様なり、繪畫なりを描出することに成功しました。また其の顔料なども、西方南方の外國品の輸入によつて豐富にし、技巧と相まつて、明代工藝の上に、磁器の發達といふことを、非常に重要なものとすることゝなりました。

(88) 明代の磁器

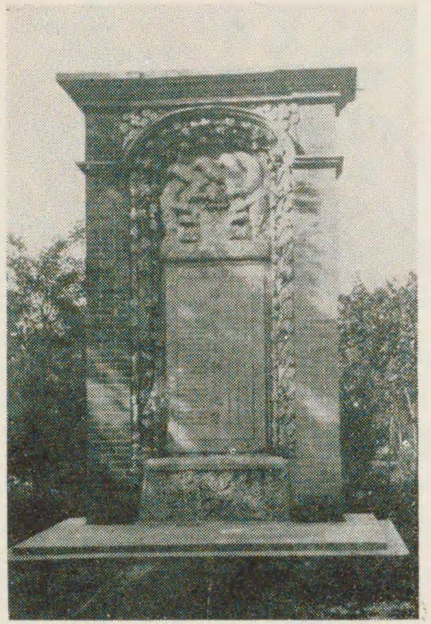


(89) 宋代の磁器

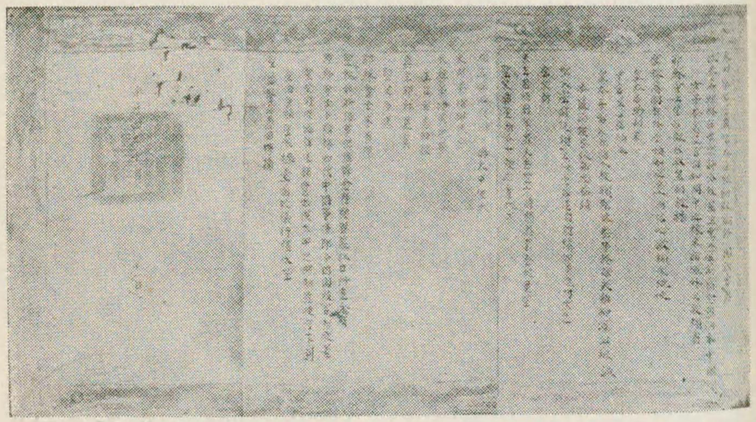
でのは、たゞ釉藥の色彩を賞するとか、極めて簡單な花文などを見たに過ぎなかつたものが、明になつては、五彩の繪畫を、白釉の上に描き出したり、いろ〳〵精巧なものが現はれて來て、窯業の上の一大進歩の時期を作りました。かういふ立派な製品が、我が國にもかなり輸入されてゐます。たゞ茶の湯の方で、名物などといつて、大名の家に傳つて、其の道の人々が、大騒ぎする茶碗や茶入れは、さういふ立派なものでなくて、却て下等な日用雜器や、膏藥入れなどであつたことは、面白いことです。然しさういふものにも、なほ美を見出す、我が國民の趣味性は味ふべきものでせう。

明の末近くなつて、支那はヨーロッパから、キリスト教の一派ジェスイット（支那では耶蘇會といひます）を傳へられました。此のジェスイット派といふの

は、明の中世に當る頃、ドイツにルーテルといふ人が出て、今までのキリスト教の弊害を攻撃し、ローマ法皇に反抗して、新しい教義を採ることを唱道したのに對して、ローマ法皇の味方をするために作られた團體なのです。わが日本が戰國時代の末に、始めて傳へられたキリスト教もこれでした。明に來た此の宣教師の中で、最もえらかつた人は、マテオ・リッチ(支那名は利瑪竇)であります。この人が神宗のとき北京に來て、布教を許されたのが始りで、つゞいて多くの人々が來ました。かういふ宣教師達は、出來るだけ、支那人と衣食住を共にし、よくその習慣や人情にあてはまるやうに、說教もしました。明廷ではかういふ人達が、科學の知識にすぐれて居るのを見て、之れを利用しました。これによつて天文學などは、



墓のテツリオテマ外城平北　(90)



勅書たつ送に皇法マーロの后太王の明　(91)

(90)マテオ・リッチ(利瑪竇)はイタリヤの生れ、明の神宗のとき、廣東に上陸し、ついで北京に入り、初めて天主教の布教を許された人。よく支那人の風俗習慣等を研究し、自分も風俗などには同化して、巧に布教につとめました。なほ宗教以外西洋の學術などをも傳へて、明代の人々を導きました。漢文の著述もあります。クリスト教の教義を説くに、天父を支那人の古からの考へにある、天、上帝などに一致させたのは有名なことです。つひに北京で歿し、其の墓は、今、北平の西城外にあります。之れはその墓標です。

(91)マテオ・リッチ等の布教で、明の大臣などにもクリスト教徒が出來ましたが、後には明の皇室にも信者を見るやうになりました。これは今、ヴァチカンのローマ法皇との記錄所に珍藏されてる、明の王太后(聖名烈納)から、法皇イノケント十世に送つて、同復の助力を願つた書翰です。

大變に進歩しました面白いのは清との戰爭に使ふ大砲まで作らせました。宣教師と大砲とは、妙な取合せですが、事實なのです。おまけにそれで大いに敵を苦めたので、その大砲に、靖國大將軍といふ稱號を、やつたといふお話もあります。又明が滅びましたときには、明の太后はローマ法皇へ、回復の祈禱を願つたこともありました。挿畫第91圖參照。

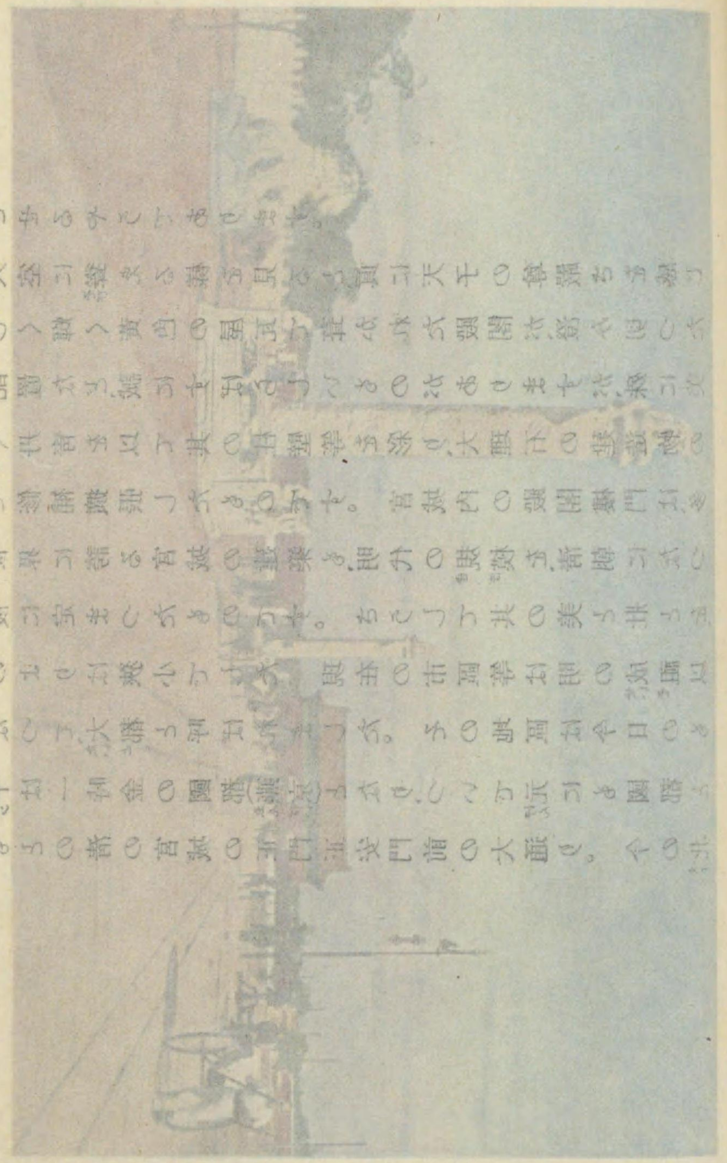
この西洋文明との接觸は、支那のいろ〳〵の方面の事情を、今までとは異るものにさせました。

二　眠れる獅子

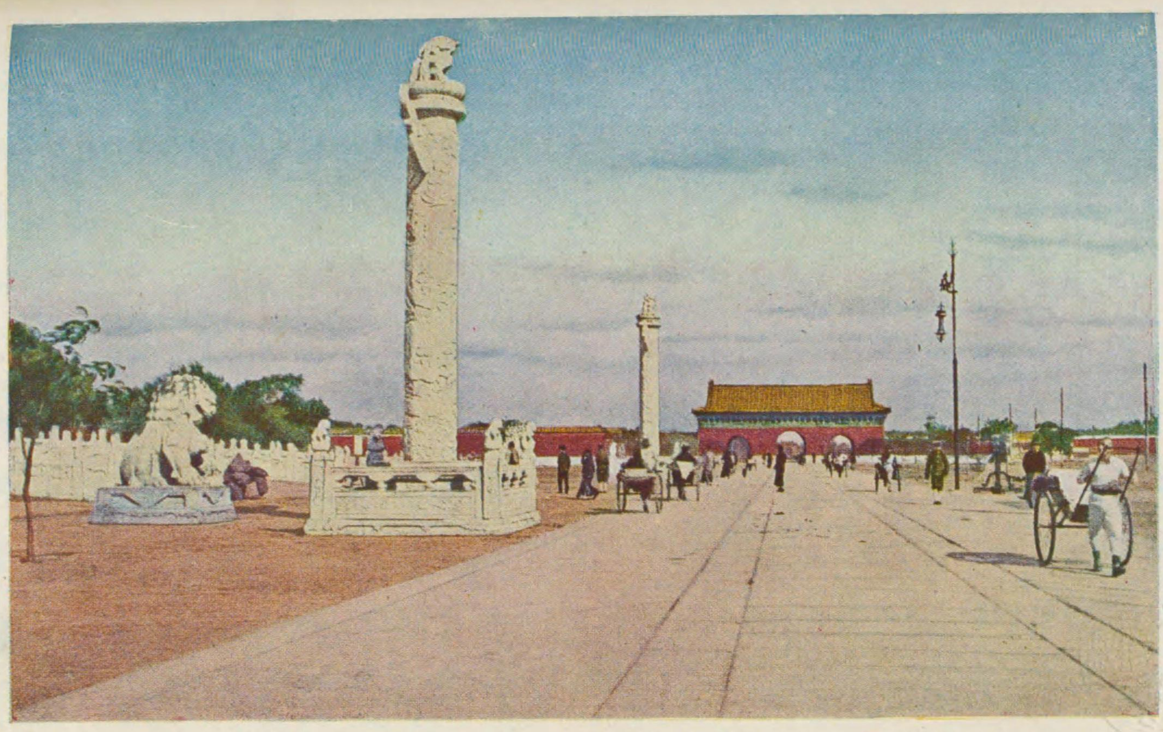
——清の時代——

辮髪の強制

明の國が内亂でとう〳〵亡びました時には、清では第三代の世祖といふ、九つの坊つちやんが、皇帝となつて居ましたが、明の大將吳三桂等の降參をうけて、明を滅した流賊どもを討つことを許し、此の滿洲の小皇帝は、堂々たる行列をして、北京に向ひました。さうして之れを首府とし、賊軍を平げ、明に代つて支那の支配を始めることゝなりました。これは明が倒れたその年（一六四四年）のことです。



(92)もとの清の宮城の正門正安門前の大通り。今の北平は一時金の國都(燕京)となり、ついで元にも國都となつて、大都と呼ばれました。その地區は今日のものよりは狹小でした。現在の市區等は明の成祖以後に定まつたものです。さうして其の美と壯とを、世界に誇る宮城の建築も、明代の規模を、清朝になつて修補擴張したものです。宮城内の殿閣樓門は、多く丹青を以て其の柱壁等を彩り、大理石の建造物の配置など、誠にすばらしいものがありますが、殊に美しく輝く黄色の屋瓦で葺かれた殿閣が、澄み切つた天空に聳える様を見ると、眞に天子の尊嚴さを感じさせるやうであります。

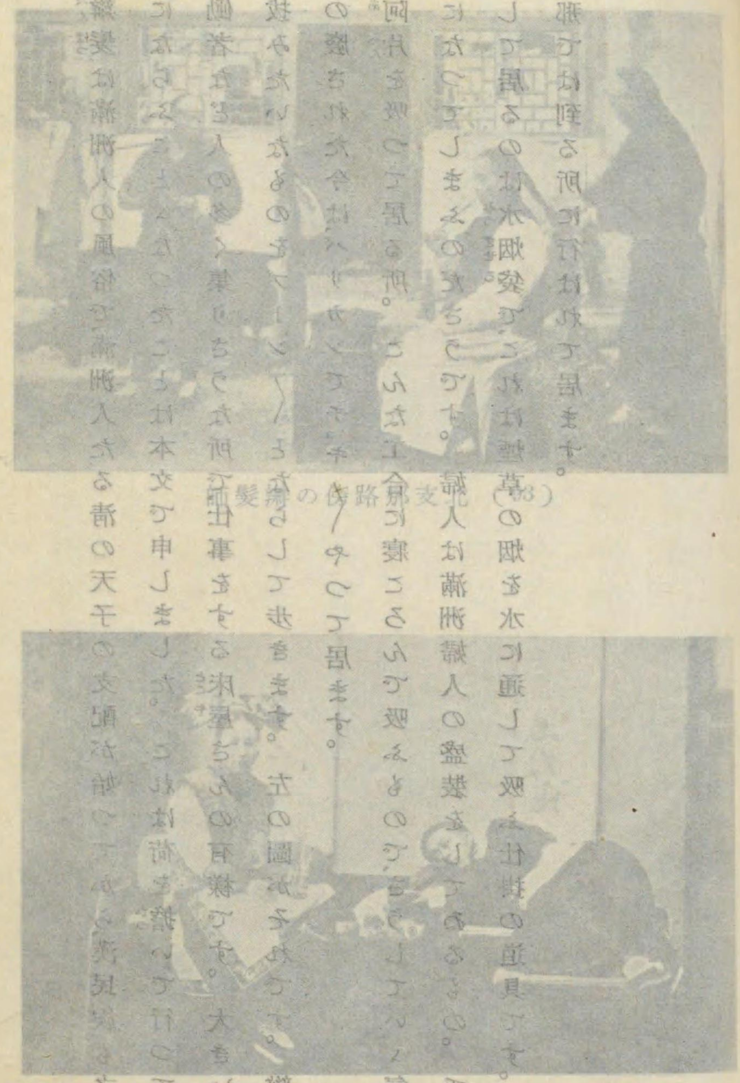


前城宮舊の清 (92)

何しろ澤山の、さうして文明もずつと進んで居る漢民族を、治めるのですから、その御機嫌をとることが大切です。それで明の仇を討つてあげたのだといひわけもする、明の皇帝のお祭もするし、漢民族に人望のあつた孔子の廟も修繕するし、その子孫を大名にする（孔子の子孫は今もなほ殘つて山東省に居ます。）とか、いろ〳〵な事をしました。然しそれだけでは威光を示すことが出來ませんから、一方には滿洲人の風俗であつた辮髪――支那人といふと、誰もがおもひ出す、あの頭のまはりを剃つて、上に毛を殘しお下げのやうに編んで、長くたらす結ひ方です――を、いやおうなしに漢民族にもさせようとしました。漢人は昔からの髪の結ひ方をすてゝ、野蠻人と思つて居る者のまねをするのですから、なか〳〵命令を奉じようともしません。

けれども一方では命令を出した以上は、ひつこめては新天子の體面にかゝはります。そこで從はぬものは死刑に處するといふことに致しました。「命あつての物だね」と、この辮髪をしはじめ、つひには支那人といへば、あの髪とさへ、思はせるやうにも、なつたのであります。

その間には、滿洲人なんぞに從ふものかと、明の皇族をいたゞいて、南方で旗あげをした忠臣もありましたが、みな清兵にまけてしまひ、清朝の支配は遠く廣く及ぶことゝなりました。さういふ中にも鄭成功といふのは、母が日本人であつたゞけ、忠義の心もつよく、臺灣に立てこもつて、明の皇族のために、天子の位をとり返へさうとつとめ、日本の徳川幕府にも援兵を願つたこともありました。



（93）北支那路傍の辮髪師

（94）阿片吸飲の圖

（93）辮髪は滿洲人の風俗で、滿洲人たる清の天子の支配が始つてから、漢民族も之れにならふことゝなつたことは本文で申しました。これは荷を擔いで行つて、勞働者など人の多く集りさうな所で、仕事をする床屋さんの有様です。大きい毛抜みたいなものをブーン〳〵とならして歩きます。左の圖がそれです。辮髪の廢された今は、バリカンでチョキ〳〵やつて居ます。

（94）阿片を吸つて居る所。こんな工合に寢ころんで吸ふもので、さうしていゝ氣持になつてしまふのださうです。婦人は滿洲婦人の盛裝をしてゐるもの。手にして居るのは水烟袋で、これは煙草の烟を水に通して吸ふ仕掛の道具です。支那では到る所に行はれて居ます。

その子から孫の時まで、つゞいて清朝に抵抗しましたが孫のとき、聖祖(康熙帝)に降參してしまひました。なほ我が國に逃げて來て、我が國の學問や宗教の上に、關係が深かつたのは、朱舜水と僧隱元でした。大楠公を湊川に弔つたのは、此の朱舜水です。

此の清朝第四代目の聖祖は卽位の初め、南方に起つた三藩の亂（吳三桂がこの亂の主謀者でした）を平げ、ついで前にいつた臺灣の平定などをして、國內の騷ぎを鎭めました。それで清の勢力は、その辮髮の令のやうに、大體、漢民族の上に行はれて來ました。

獅子の雄姿

今いひました聖祖から、世宗(雍正帝)、高宗(乾隆帝)の三代、百三十年

ばかりは、清朝の黄金時代で、領土が非常に廣大になつて來たばかりでなく、學問でも藝術でも、立派なものを見ることが出來、またヨーロッパの諸國に對しても、決して後世のやうな、弱いいくぢのないやうなことは致しませんでした。

聖祖は外蒙古に親征もする、西藏にも兵を出して、清の威を張りました。滿洲の北、シベリヤに現はれて來たロシヤの勢力は、十六世紀末――支那でいふと、明の中頃――から、だん〳〵と伸びて來て、清の初には、黒龍江から日本海方面へも出て來たので、清はこれに對して談判をし、ネルチンスク（滿洲の一地名）の條約で、その侵入をおひのけました（一六八九年のこと。）聖祖は武事の一方には、深く學問を好み、陣中にあつても、その當時朝廷に仕へて居た、キリスト教の宣教師から、西洋の學問をさへ、教授してもらつたといふことです。

世宗のときには、西藏、青海の領土を確實にしました。高宗の時は更に大仕掛の征伐が行はれて、西は今の新疆省方面の征服もすれば、外蒙古の支配もかためる、また西南では四川省方面の蠻族を服し、遠くインドの北部のグールカを攻めるし、南はバルマ、シヤムにも及びました。それで其の支配をした土地は、北は蒙古、滿洲から南は印度支那の境に及び、東は海から西は新疆省、西藏を含む廣さとなり、私共が支那として地圖で、示される地域は、このとき出來上つたといつてもいゝのです。しかも此の時の方が、實は今よりも、もつと廣かつたのであります。

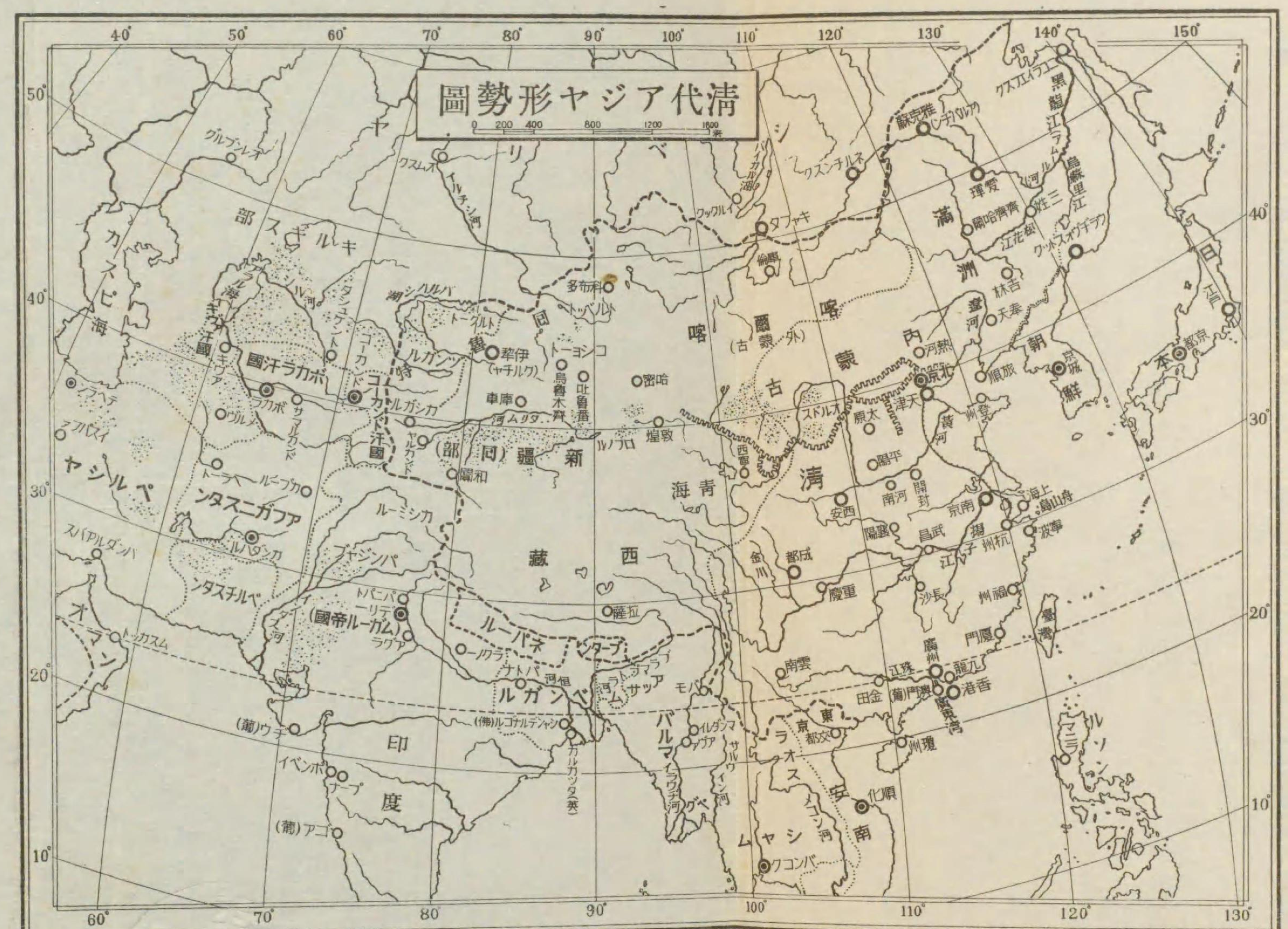
高宗も學問好きであり、また自分も一かどの學者でしたから、そ

の治世には學問が盛でした。それは次に申しませう。かういふ風に、領土も廣くなり、文明も進んだ清朝は、從つて外國人――西洋人などに對して、別に恐れるどころでなく、自分こそ大皇帝だといふ意氣を有つて居まして、ロシヤなどには遠夷との交際は皇帝の惠によるもの、禮を失へば之れを許さぬぞと、其の態度を示したこともあり、高宗は交通貿易を願つて來たイギリスの使節（正使はマカートネーといふ人）の船が、天津から北京に入るときには、朝貢の旗を立てさせ、いよいよ其の使に面會するときには、清の臣下が皇帝に謁見するときの禮儀をしろと、命じた位でした。それでもとより外國に、對等のおつきあひなどは、許さうとも考へませんでした。

その勢のすばらしかつたことは、たとへば獅子の姿のやうでし

ふ意氣を有つて居まして、ロシヤなどには遠夷との交際は皇帝の恵によるもの、禮を失へば之れを許さぬぞと、其の態度を示したこともあり、高宗は交通貿易を願つて來たイギリスの使節（正使はマカートネーといふ人）の船が、天津から北京に入るときには、朝貢の旗を立てさせ、いよいよ其の使に面會するときには、清の臣下が皇帝に謁見するときの禮儀をしろと、命じた位でした。それでももとより外國に、對等のおつきあひなどは、許さうとも考へませんでした。

その勢のすばらしかつたことは、たとへば獅子の姿のやうでし



此の圖は高宗乾隆帝の時代を、中心としたものですが、地名には後になつてのものをも記入したのがあります。ウラヂヴォストックなどは其の一例で、もと清國の領土だつたのをロシヤにとられたものであるといふことを明かにさせたゝめです。滿洲から起つた清朝は、前漢や唐にもまさる大きい版圖を、直接支配することゝなり、今日支那といふ言葉ですぐ聯想される、大きい地域は、此の高宗の時に大體確定したものです。かういふ大きい領土も、十九世紀後半からはヨーロッパ列强に削られたり、占領されたりしましたが、殊にロシヤに取られた北方の地域は、非常なものでした。また其の末期には、支配の十分に行はれない部分もふえて來ました。

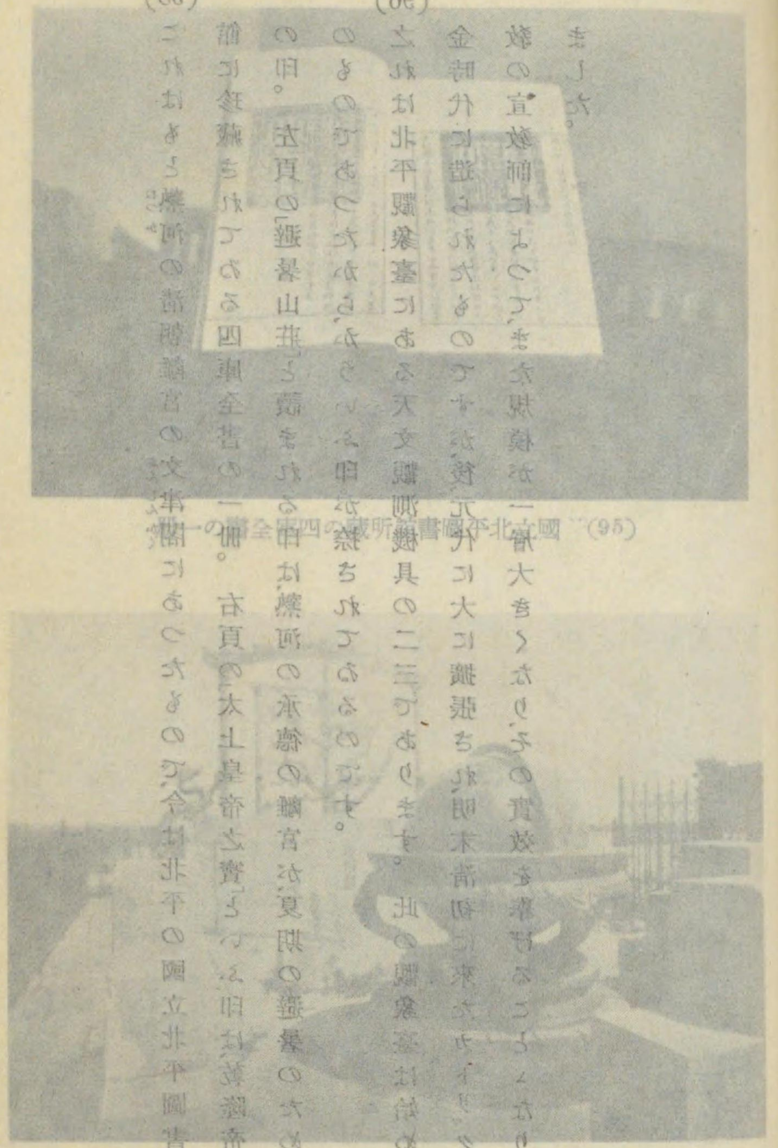
た。然しこの皇帝の御世の終り近くから、國力がだん〳〵に衰へて來て、後には「此の獅子は寢てる」「いや死んだのだ」「いや獅子でなくて豚だよ」などと、外國から散々に馬鹿にされ、いぢめられるやうになり出しました。

四庫全書

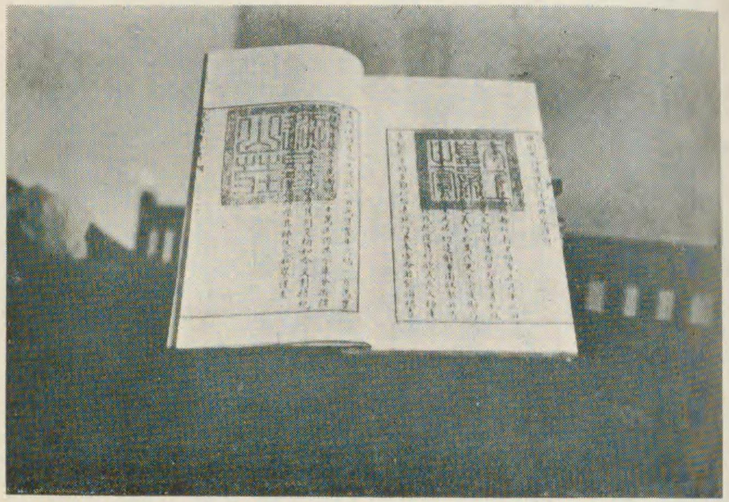
聖祖も高宗も戰が好きであつたばかりでなく、また學問もすきで、その奬勵もされたことは、前にも一寸いつておきました。それで勅命によつて編纂させた書物は、歴史のものでも、文學のものでも辭書でも、その數は非常なものでした。古今圖書集成の如きは、一部の書物で、卷數は一萬もありました。高宗の時に出來た四庫

全書と云ふ叢書は、何といつても第一のものでせう。

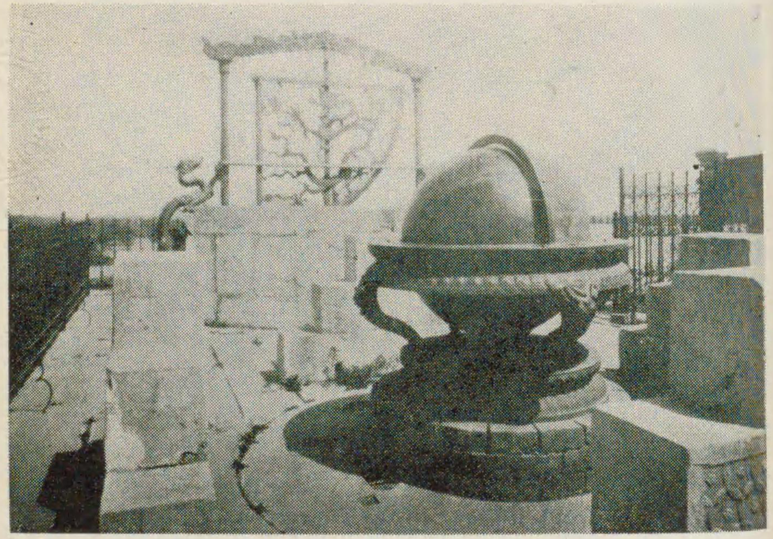
支那では本の種類を大きく分けて、經、史、子、集の四つにします。朝廷ではさういふ書物を、それ〳〵經の庫とか、史の庫とか、庫を別別にして入れておかれたことがありましたので、四庫の書といへば、すべての種類の書物を、ひつくるめて云ふ言葉になります。さてこの四庫全書とは、當時あつた經史子集のあらゆる重要な書物を、まとめた大叢書で、全部では三萬六千二百七十五册、二百二十九萬九百十六頁といふ大げさなものです。この編纂には三百餘人の學者が、十年の年月を費しましたが、更に驚くべきことは、かういふものが八部、全部肉筆で書かれたといふことです。これは完全なものは、今は三部しか殘つて居りません。（數年前フランスが、其



（96）北平觀象臺の觀測機器



(95) 北平圖書館藏の四庫全書の一冊



(96) 北平觀象臺の觀測機器

全書と云ふ叢書は、何といつても第一のものでせう。

(95) これはもと熱河の清朝離宮の文津閣にあつたもので、今は北平の國立北平圖書館に珍藏されてゐる四庫全書の一冊。右頁の「太上皇帝之寶」といふ印は、乾隆帝を別の印。左頁の「避暑山莊」と讀まれる印は、熱河の承德の離宮が、夏期の避暑のためいへのものであつたから、かういふ印が捺されてゐるのです。

(96) 之れは北平觀象臺にある天文觀測機具の一三であります。此の觀象臺は始め金時代に造られたものですが、後、元代に大に擴張され、明末清初に來たカトリック教の宣教師によつて、また規模が一層大きくなり、その實效を擧げることゝなりました。

の中の一部を、もらひ受けたいと頼んで來たので、世界の注意をひく事件を起しました。西洋ではかういふものにも、目をつけて居るのです。奉天の清の故宮にも、一部ありますので、滿洲國では之れを出版しようといふ企もあります)。

西洋人が明の末に來て、新しい學問を傳へたことは、前にもいひましたが、清でも澤山のキリスト教の宣教師が、朝廷に用ゐられて、いろ〳〵實用の學問を教授しました。それで實際に測量した支那全圖も出來れば、いゝ曆も作られました。キリスト教の行はれた影響の一としては、バイブルの物語を、支那風の畫であらはしたものも出來ました。宣教師のフェルビースト(支那名は南懷仁)は、聖祖の時に大そう信用された人ですが、大砲を造る監督もして居ま

す。餘談ですが、その大砲が二百年も後になつて、日清戦争にひき出され、またそれが日本に分捕られ、筥崎八幡宮の社前に、さゝげられて居るから面白いではありませんか。

美術にもこの初期はすぐれた畫家が居ました。山水畫は南畫が盛で、四王(王時敏、王鑑、王原祁、王翬)や惲南田などいふ人々があつて、何れも立派な作を残しました。我が徳川時代に南畫が盛になりましたのは、この清の畫家の蕭雲從といふ人の手本が渡つて來てからです。北畫には藍田叔が有名でした。花鳥畫には日本に來たこともある沈南蘋の如きは、寫生風のものを得意としました。

それから西洋畫も、明の末以來、支那に影響し、その畫法を支那畫に應用するものも出て來ました。イタリヤ人カスチリヨーネ(支

たとしても、一切の花一葉の略畫も決して、何れも立派な作をしてゐるのは、この清てからです。北畫には百金を以てやらなかつた。それから西洋畫も、に應用するものも出て來ました。

性質は花卉を描き、その人格者で、全く俗氣がなければ、畫家の人格ぐらい第一のほまれ、百金畫をつんで來ました。

畫は花卉を描き、その人格者で、全く俗氣がなければ、畫家の人格ぐらい第一のほまれ、百金畫をつんで來ました。

(97)　こ惲南田などいふ人々があつて、日清戰爭にひきの山田は清初の名畫家。

水畫は南畫の傑作で、詩交も巧でありました。

王石谷は南畫の大家。

王石谷は南畫の大家。

畫は初めの名畫家。

畫は初めの名畫家。

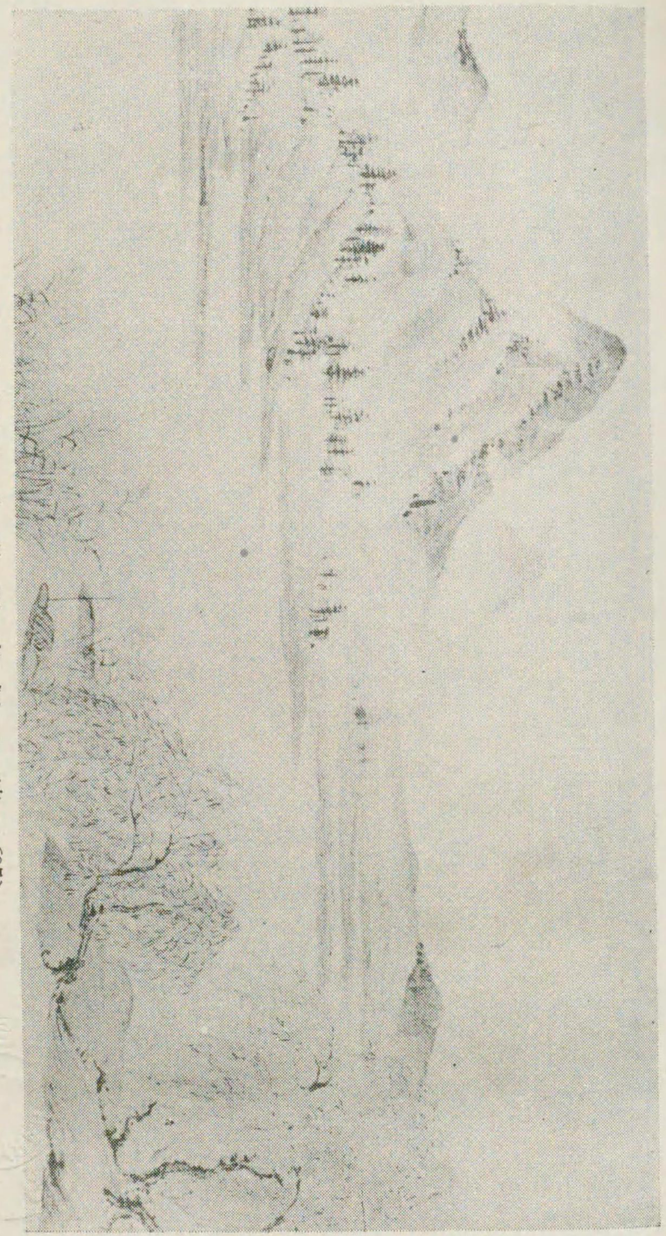
出され、またそれが白眼視されて居るから面白いことです。

美術にもこの初期が盛で、四王(王時敏、王石谷)は南畫の大家。

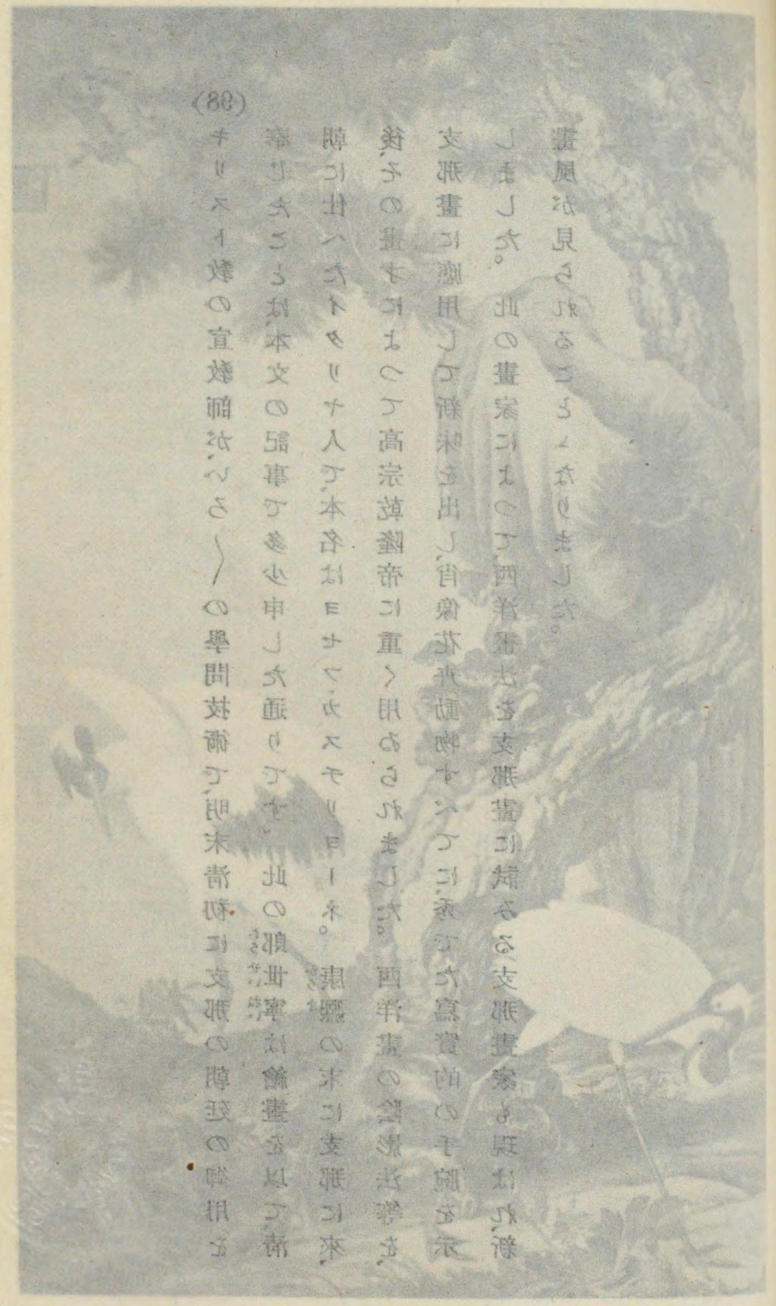
出され、またそれが白眼視されて居るから面白いことです。

美術にもこの初期が盛で、四王(王時敏、王石谷)は南畫の大家。

す。餘談ですが、そ



卷圖水山筆田南惲の清　(97)



(98) 郎世寧筆松鶴圖

(98) 郎世寧筆松鶴圖

(98)

キリスト教の宣教師が、いろ〳〵の學問技術で、明末清初に支那の朝廷の御用を奉じたことは、本文の記事で多少申した通りです。此の郎世寧は繪畫を以て、清朝に仕へたイタリヤ人で、本名はヨセフ・カスチリヨーネ。康熙の末に支那に來、後、その畫才によつて高宗乾隆帝に重く用ゐられました。西洋畫の陰影法等を、支那畫に應用して新味を出し、肖像花卉動物すべてに、秀でた寫實的の手腕を示しました。此の畫家によつて、西洋畫法を支那畫に試みる支那畫家も現はれ、新畫風が見られることゝなりました。

郎世寧）は、畫を以て高宗に仕へ、西洋畫法を巧に、支那畫に應用して、人物畫、動植物畫などの名作を遺しました。

陶器磁器のやうな工藝品も、聖祖から世宗・高宗の世には、非常に華美な精巧な物が作り出されました。

支那では聖祖から世宗・高宗に至る間を、其の前後の皇帝の年號によつて、一口に康熙・乾隆の世といつて、その盛であつた御世をほめたゝへて居ます。此の時代の上流社會の一面は、紅樓夢といふ清朝第一の傑作といはれる小説で、うかゞふことが出來ます。

阿片の禍

清國は高宗の次に仁宗が立つと、もういろ〳〵と内亂が起りま

した。それから宣宗になりますが、その時代は内の騒ぎばかりでなく、外にはイギリスと面倒な事件をひき起し、國の弱い所をさらけ出してしまひました。

それは阿片の問題です。阿片といふのは罌粟の實の汁から作る藥でありますが、それを煙草のやうに吸ふ習慣が、明の末ごろから、はやり始めました。この阿片は始めは、主としてインドに居たポルトガルの商人から買ひましたが、後にインドがイギリスの勢力に支配されるやうになつてからは、イギリス人がその賣込み人となりました。

阿片を吸ふのには、寢ころんで、きせるのやうなもので吸ふのですが、吸つてるうちに、大へんいゝ氣持ちになつてしまふのださう

(99) 支那の陶磁器は、宋の時代に重要な發達を見ましたが、これが明になると、技巧的にも工藝的にも、一層の進歩のあつたことは、既に明代の特色を述べた折に一言しました。清の康熙年間から乾隆年間にかけて、技巧は更に格段に進みました。この圖の如きも、其の進歩の一大特色を示したもので、自由な花鳥圖案を、鮮かな色を以て表現してゐます。もと清宮室のもの。

(99) 清乾隆時代の磁器
（壺）

です。然しこれは身體にも精神にも、非常な害を及ぼすもので、ひどくなれば手足の自由がきかなくなり、頭は馬鹿になつてしまひます。その上にこんな害になる品物を買ふために、多額な金をイギリス人にとられるのですから、清朝ではたび〳〵禁止の命令を出して、取締りましたが、一たん染みこんだ癖は、なか〳〵ぬけません。乞食でも少しのもらひがたまれば、まづ一服と、之れを吸つて、一時の樂をするといふ有樣でした。宣宗の卽位の初には、五千箱ばかりの輸入であつたものが、十五、六年の後に二萬七千箱（金高にすれば千八百萬ドルばかり）にもなりました。それで財政の上からも、之れをやめさせなければならないと、心ある上下の人々が、考へたのは當然のことであります。

その結果、林則徐といふ人が、宣宗の命によつて、廣東でイギリス商人のもつてる阿片を取上げて焼きすて、イギリスとの貿易を禁じました。そこでイギリスは大に怒り、軍艦を出して清國を攻めました。これが、一八四〇年のことで、この戰爭を阿片戰爭と申して居ます。

イギリスの海軍は支那海沿岸の要地を、どし〳〵攻撃したり占領して、遂には揚子江を泝つて、南京に迫つたので、清も驚いて一八四二年南京で和議を結びました。此の南京條約で、償金は出す、香港はイギリスにやる、上海・廣東・福州・厦門・寧波を開港場とする、今後は對等の國交をすることなどを約しました。翌年には更に治外法權を認めることをも取極めました。

この戰爭は清の弱いことを、國人にも外國人にも知らせたので、これからは獅子の威光もなくなります。またとにかく同等につき合ひをしますといふことをいつたので、アメリカその他の國とも、同樣條約を結ぶことになりました。

落第生の謀叛

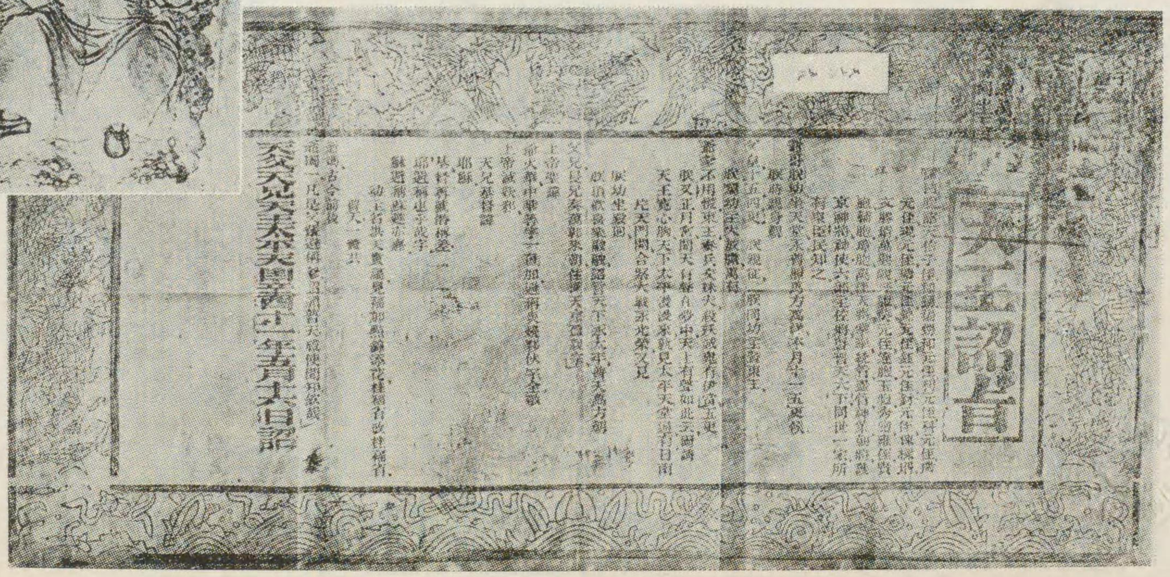
此の清國の失敗は、國内では滿洲人の信望を失はせ、漢民族再興の氣勢を盛にさせることゝなりました。さういふ空氣がひろがつて來たとき、南方の廣東省に洪秀全と云ふ人が出ました。初めは官吏にならうと思つて、その試驗を受けましたが、落第はするし、金もなくなつたので、時にはうらないなどをして、其の日を送つたこ

ともありました。後にキリスト教に興味をもち、イギリス人について研究をしたこともありました。其のうちに純粋のキリスト教とはいへませんが、一種の教會の長となり、次第に其の信者を集めることが出來ました。

宣宗の末頃、廣東、廣西の地方には飢饉があつて貧しいものは、その日その日の糧にも、苦んで來ましたが、官吏は之れを救濟しようともしない。すでに弱い者として、清朝を馬鹿にして來た野心家だちは、この民の怨を利用するのが好都合だと、いろ〳〵の事をもくろみました。さういふ反抗騒動が起つて來ましたから、洪秀全は同志の勸めによつて、宣宗についで、文宗が卽位した一八五〇年、漢民族の天下を取戻すこと、キリスト教の主義とを看板にして、

(100) 曾國藩は湖南の出身。清末の大政治家。咸豐の初年母の喪を以て官をやめて鄉里に歸つてゐたが、偶〻太平天國の亂(長髮賊)に際し、鄉勇を率ゐて、賊にあたり、左宗棠、李鴻章等と協力して勝利を得、つひに此の大亂を平定した人。同治中興(同治は穆宗の年號。同治の初め長髮賊の亂平ぎ、清朝一時その勢力を回復したので、此の名があります)第一の人物といはれてゐます。其の人となり公誠、文武兼ね備つた偉人。その文章は天下の仰ぐ所のものであります。兩江總督在任中に歿しました。

(101) 太平天國の亂(長髮賊)の首魁天王洪秀全の詔書の一つ。天父基督の恩惠加護などをいひ、其の他迷信的なおつげの事なども書き記されてゐます。之れでも洪秀全の思想がよく分ります。この詔は黃色の紙に印刷されたもので、長さ一一二センチメートル、高さ五・六センチメートル。ロンドンの大英博物館に珍藏されてゐます。長髮賊はかういふ宣傳の文書を澤山に發行しました。



(101) 天王の詔書

廣西で清を倒す旗あげをしました。さうして國を太平天國、自らを天王と稱し、その身はキリストの弟にあたるとも申しました。この軍隊は辮髪をやめて、昔の漢人のやうに髪をのばしましたので、長髪賊といはれました。

長髪賊の軍隊は、男子の他に、女子をも訓練して其の勢力に加へ、忽ちの中に北へ上つて、南京を取り、之れを天京といひ、大臣以下の任命をして、南方に一國を造らうとしました。清朝の誇とした八旗兵といふ軍隊も、今はすつかり役に立たず、敗けてばかり居ましたので、清廷は勤王の兵を募り、義勇兵（鄉勇）を以て、それを補ひました。これは地方地方の有力者が、其の土地の勇士を募つて組織したものので、例へば湘（湖北省）勇などと、その地方の名がつけられて居ました。

かういふ義勇兵を率ゐて立つた人々の中で、曾國藩は清末第一の人物といふべき偉人で、上下の信望を受けて、大亂の平定につくし、李鴻章や左宗棠などを部下として、賊を破ると共に、地方の治安に意を用ゐました。

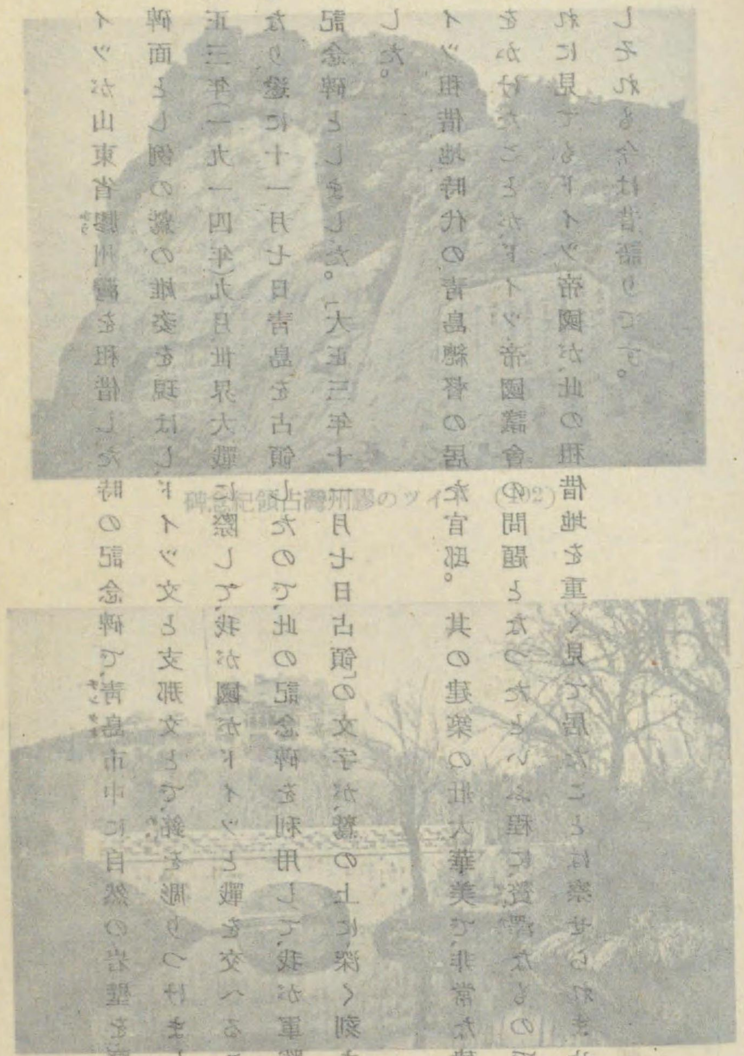
かく兩軍が爭つて居た間に、清朝の官吏や人民の亂暴から、イギリス、フランスの兩國を怒らせ、一八五七年、その聯合軍にも攻められるといふ事件が起り、清は「泣面に蜂」の有樣となりましたが、結局、清は多くの損害の後、一八六〇年の北京條約で和を結びました。それで翌年新たに立つた穆宗は、また力を長髮賊の平定に用ゐることが出來るやうになりました。その中に賊には仲間喧嘩がおこるし、官軍はイギリス人ゴルドン將軍の援を受けて、新式の訓練ある洋槍隊（外國人が自衞のために、支那人を募つて、西洋式の調練をして居た軍隊ですが、味方に加はつたので、大に勢がつきました。それで曾國藩が總指揮官となり、一八六四年（清朝では穆宗の同治三年。我が國では孝明天皇の元治元年。明治維新の四年前です。）とう〳〵南京を陷れて、十五年の大亂を平げることが出來ました。

弱い者いぢめのヨーロッパ

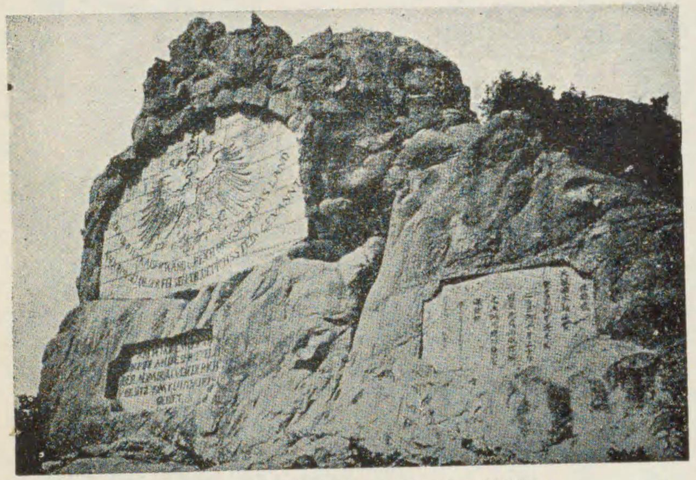
清國も其の初めは、前に申した通り、なか〳〵強くて、ロシヤでもイギリスでも遠慮して居ましたが、阿片戰爭で敗けたのを見てから、ヨーロッパの國々の態度が、すつかり變つて來ました。ロシヤはシベリヤから滿洲の北の方へ、ずん〳〵入りこんで土地を取り、長髮賊の亂で清が苦しんで居るのを、之れ幸とばかり、之れをおど

しつけて、一八五八年にアイグン條約で黒龍江の北を取り、翌々年には下つて沿海州を手に入れてしまひました。清國はその後、保護國として居たアンナンの事から、フランスと戰爭をすることゝなりましたが、之れもまた敗けとなつて、フランスに讓りました。

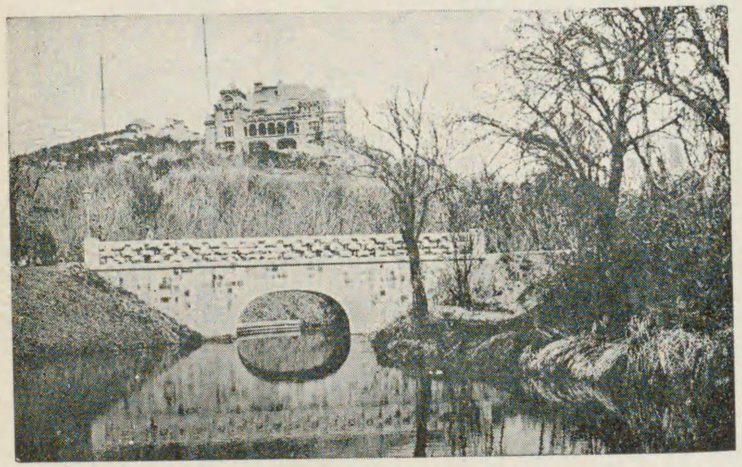
日清戰爭（我が國が朝鮮の獨立のために清國と戰つた戰爭。明治二十七、八年（一八九四―九五年））で、我が國が勝つて臺灣や遼東半島を、清國から取ることになつたのを見て、ロシヤはフランス、ドイツを誘ひ、我が國に向つて、あなたの國が遼東半島をもつことは、東洋の平和に害があるから、還しておしまひなさいと、いつて來ました。我が國は東洋の平和を害するといはれては、人道の上から、面白くないから、之れを還してやることゝしました。之れはロシヤに遼東半島で、勝手な事をしようとするたくらみがあつたか



(103)



碑念紀領占灣州膠のツイド　(102)



邸官督總ツイド舊の島青　(103)

(102)ドイツが山東省膠州灣を租借した時の記念碑で、青島市中に自然の岩壁を磨いにて碑面とし例の鷲の雄姿を現はし、ドイツ文と支那文とで、銘を彫りつけました。大正三年(一九一四年)九月、世界大戰に際して、我が國がドイツと戰を交へることとなり遂に十一月七日青島を占領したので、此の記念碑を利用して、我が軍勝利の記念碑としました。「大正三年十一月七日占領」の文字が、鷲の上に深く刻まれました。

(103)ドイツ租借地時代の青島總督の居た官邸。其の建築の壯大華美で、非常な建築費をかけたことが、ドイツ帝國議會の問題となつたといふ程に、贅澤なものです。それに見てもドイツ帝國が、此の租借地を重く見て居たことは察せられませう。然しそれも今は昔語りです。

らだつたのです。

それから間もなく、一八九七年ドイツの宣教師が、山東省で殺されると、支那に事あれかしと待ちかまへて居た、ドイツ皇帝ウィルヘルム二世は得たり賢しと、軍艦を送つて膠州灣を占領し、之れを九十九年間租借することを、清國に談判して、いや應なしに承知させました。これを見たロシヤは、東洋の平和のためといつて、日本から還させたばかりの、遼東半島の肝心かなめの旅順口と大連灣とを租借する（これは二十五年間）イギリスはその向ひ側の山東省の威海衞（これは廿五年間）と廣東省の九龍半島（これは九十九年間）の、フランスは廣東省の廣州灣（これは九十九年間）の租借に成功しました。租借といつても、實は領有の別名ですから、つまり支那の海岸の要所は、みんなヨーロッパの強國にとられようと

して來たのです。

かうして大切な土地をとつて置いてから、今度は他の國にさういふことをさせない爲め、自分たちの得た權利は、失ふまいといふ考へから、清國政府に迫つて、土地不割讓の宣言といふことをさせました。それはどこそこの地方は、今後外國に一切租借を許したり、讓り渡すことは致しませんといふことを誓はせたのです。誰が好んで自分の領土を外國に渡し度いものですか。それを諸強國は、こんな風に支那をおもちやにしはじめたのです。

諸外國は租借と一しよに、その地方で、鐵道をしいたり鑛山を掘る權利も得ました。が更に自分達に都合のいゝ土地には、出來るだけ多くの鐵道を設けようと謀りました。それでこれから民國

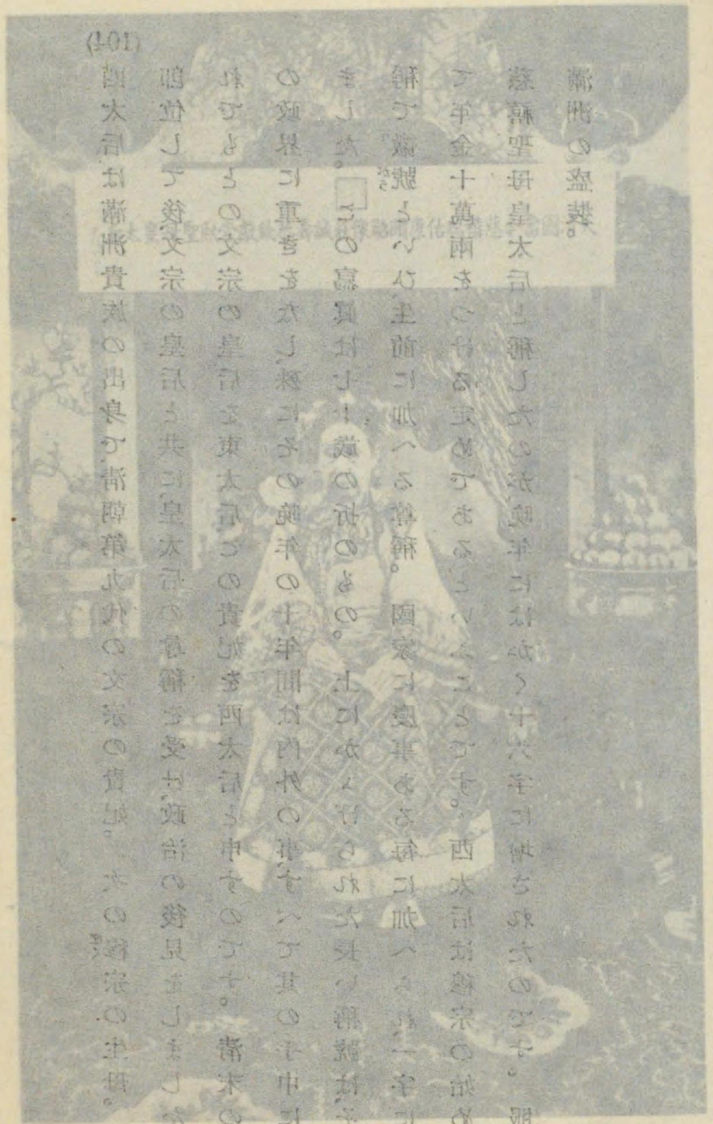
の初にかけては、各國間の大競爭が起りました。

なほ虫のいゝのは、かうして支那からいろ〳〵の利權をとつた外國は、支那でお互に勢力範圍といふものをきめて、その範圍の內でするお互の行動は、かれこれいはないことにしようと、約束するものもありました。例へばロシヤが蒙古を勢力範圍とすれば、イギリスは揚子江の流域を、それとするといつた調子でした。グータ太郎さんといふとんまなお百姓が、大きい林檎畑や梨畑を持つて居る。それを露助だの英吉などといふ慾張りが取り度い。出來るなら、どちらも地面ぐるみ取りたいのは山々だが、それは他からの邪魔も出さうだからと、相談して、「林檎はお前が勝手にするがいゝ、おれには梨をくれろ」「よろしい」と約束する。さうして當の持主に

は相談もない。そのグー太郎さんは、「おらの畑で勝手なまねをしてはならねえよ」とも、いへないのですから、氣の毒ではありませんか。然しかういふことは十九世紀に於いては、弱い國に對する、強い國の權利だともされて居たのでした。

一寸の蟲にも五分の魂

かうしたヨーロッパ人の我が儘なやり方には、もう獅子ではなくて、眠つて居る豚であつたにしても、支那の人々が、不快にも殘念にも感じて來たのは、當り前です。その憤慨は二つの道に向ひました。一つは支那を改革して、かういふ不都合な強國と競爭しても、負けない強い國としようとするもの、一つは何でもかんでも、こ



后　太　西（104）

（弐）

（104）西太后は滿洲貴族の出身で、清朝第九代の文宗の貴妃。次の穆宗の生母。穆宗卽位して後、文宗の皇后と共に、皇太后の尊稱を受け、政治の後見をしました。それでもとの文宗の皇后を東太后、この貴妃を西太后と申すのです。清末の支那の政界に重きをなし、殊にその晩年の十年間は內外の事、すべて其の手中にありました。この寫眞は七十歲の折のもの。上にかゝげられた長い稱號は、その尊稱で徽號といひ、生前に加へる尊稱。國家に慶事ある毎に加へられ、一字につき年金十萬兩をつける定めであるといふことです。西太后は穆宗の始めには、慈禧聖母皇太后と稱したのが、晚年にはかく十六字に增されたのです。服裝は滿洲の盛裝。

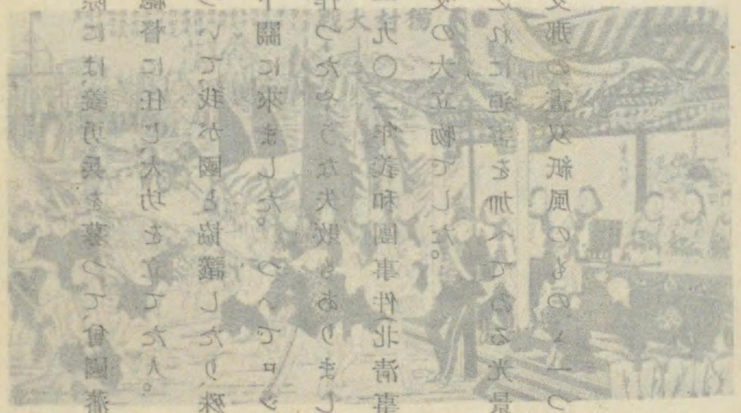
んな外國人は、おつぱらつてしまはうと力むものでした。

今までの惡い政治が、國の禍のもとだと考へた人々――康有爲（書家としても清末第一流の人）などは、皇帝の德宗に、大改革の意見をたてまつり、政治をよくし、國を強くする策（これを變法自彊の策といひました）を講じました。ところが西太后（前々代の文宗の妃）といふお婆さんは、今までも政治に口を入れて居たのでしたが、之れを見ると、大いに怒りまして、德宗はおし込め、康有爲等はやめてしまひました。この事件を戊戌の政變（清の光緒二十四年、戊戌の年、わが明治三十一年のこと）といひます。

かういふときに、一方の何でも外國人はおつぱらはうとする連中は、山東省の義和團といふ徒黨に、暴動を起させるに至りました。宣教師を殺す外國人を襲ふ。そこで淸政府はこの鎭定の軍隊を

出しましたが、いつの間にか、此の官軍は暴徒と一しよになつて、北京に入り、外國の公使館を圍み、清政府は亂暴にも諸外國に戰爭を宣言しました。これは一九〇〇年（清の德宗の光緒廿六年 日本の明治三十三年）六月のことでした。不意を食つて、日本始め諸外國の居留民は、一時は驚きもし、困りもしましたが、間もなくそれ〴〵本國からの軍隊が來て、聯合軍を組織し、忽ち支那兵を屈服して、公使館の危難を救ひました。

さて清國は和を願つたので、諸外國の代表者は、清の李鴻章等と北京で相談した結果、償金四億五千萬兩の支拂ひ、武器輸入の禁止、外國軍隊の駐屯などのことが定められました。此の償金は利子をつけて毎年少しづつ拂ひ、四十年間に拂ひずみとするので、元金と利子では、九億兩以上になります。これでたゞさへ樂でなかつ



章鴻李　(105)

待虐人洋西の匪團和義　(106)

(105) 李鴻章は安徽省の出身。長髪賊（太平天國亂）の際には、義勇兵を募つて、曾國藩の部下に活動し、それより累進して山東直隷等の總督に任じ、大功を立てた人。安南の問題でフランスと交渉したり、朝鮮事件について、我が國と協議したり、殊に日清戰爭のときには、媾和條約を結ぶため、我が下關に來ました。ついでロシヤし困と密約をして、滿洲にロシヤの勢を誘ふもとを作つたやうな失敗もありました合軍が、專ら德宗の朝には外交の衝に當りました。一九〇二年義和團事件（北清事變）の媾和を結んで後歿しました。清末の內政外交の大立物でした。

(106) 之れは義和團匪がいはゆる洋鬼（西洋人）を惡み、之れに迫害を加へてゐる光景で、當時の支那の色刷畫から採つたもの。之れで支那の畫双紙風のもの丶一つの標本も分るでせう。

た支那の財政は、すつかりまゐつてしまふことになりました。清國のひどい貧乏はこれからであるともいへるのです。

自分を省みないで、たゞ〳〵他を恨み憤つた結果は、かうして却つて其の國を危くするに至つたのであります。

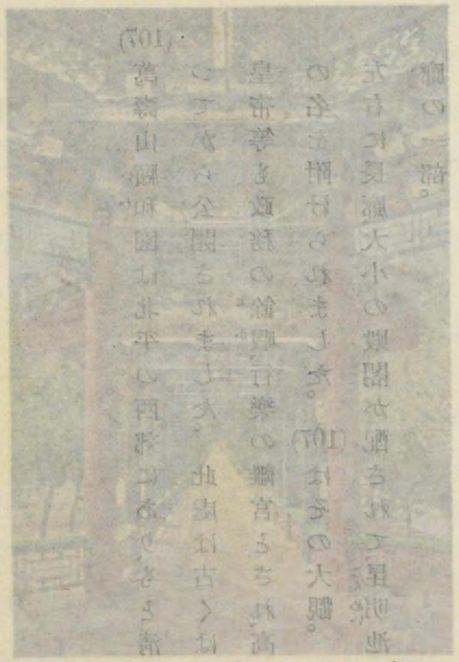
秘密結社

前に申した西太后は、清朝の末の政治には、其の中心となつた人で、其の勢力はたいしたものでした。甘い事をしようとする諸外國の公使などは、このお婆さんの御機嫌をとるのに、心をなやましたといふことです。この太后がどんなに我が儘であつたかといふ一つのお話としては、北京郊外の萬壽山離宮の大修理のことで

も分りませう。それは日清戰爭のために、殆ど全滅した軍艦をつくるのに、李鴻章がいろ〳〵と工夫して積んで置いたお金を、そつくり其の御殿の建築に使はせたといふ話なのです。海軍のお役人がその建築のかゝりになりました。この離宮は今は一つの遊園地となり、建築の美と水の美とで、有名になつて居ります。北京に遊ぶ人で、こゝを訪ねないものは御座いません。

さて義和團の事件の後には、さすが剛情の此の西太后も、根は賢明ですから、目がさめて、いろ〳〵政治上の改革を行ひました。或は日本、或は西洋諸國にと、其の文明の視察やら研究に、役人もやれば留學生も出して、國力を強めようとしました。

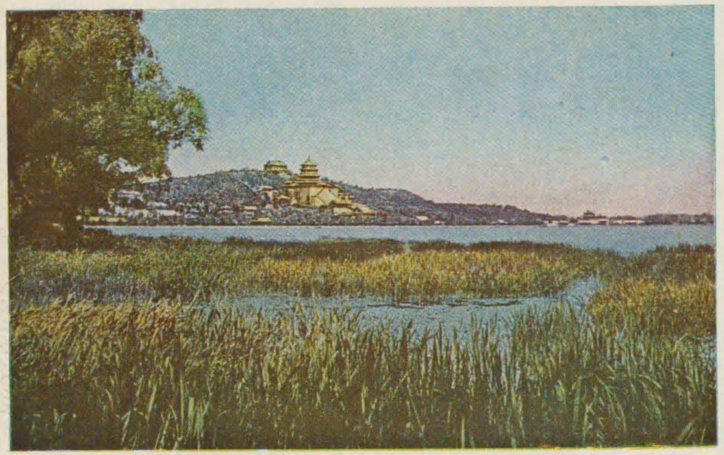
さうかうして居るうちに日露戰爭（一九〇四―五年、明治三七―三八年）が起り、日本が大勝



(107) 萬壽山の離宮（下）
(108) 同所長廊の一部（上）

(107) 萬壽山頤和園は北平の西郊にあり、もと清の離宮でありましたが、中華民國になつてから公開されました。此處は古くは明の成祖(永樂帝)の清遊の地。清朝の皇帝等も政務の餘暇、行樂の離宮とされ、高宗(乾隆帝)が之れを、擴張されて、頤和園の名を附けられました。(107)はその大觀。中心たる建物は佛香閣、排雲殿で南面、左右に長廊、大小の殿閣が配されて、昆明池に臨んでゐます。(108)はその有名な長廊の一部。

(107) 萬壽山の離宮(下)



(108) 同所長廊の一部(上)

利を得ますと、之れは日本が立憲政治の國であつたゝめ、專制國のロシヤを敗かすことが、出來たのだといふことを、主張する者も出て來て、憲法の必要が唱へられました。さうして清國の政府は、かういふ改革說に從ひ、離れがちな國民の心をつないで行かうとしました。

ところが一方には、滿洲人たる此の清朝に反感をもち、これに反抗する漢民族の中には、前からいろ〳〵な秘密の團體をつくつて、事があれば其のすきにつけ入らうと、機會を窺つて居た革命黨がありました。中にも孫文（字は逸仙）の興中會といふのは、皇帝の政治を倒して、共和政治をたてようと主張したものでありました。

清朝では憲法は發布する、國會も數年後には開くといふことを、

宣言しましたが、なか〳〵かういふ勢をしづめるのは、むづかしかつたのです。すると一九〇八年（明治四十一年）徳宗と西太后とは、つづいて急になくなられた。徳宗の甥の三つになる赤ちやんが、皇帝の位につくこととなりました。これが宣統帝（今の滿洲國皇帝）で、お父さんの醇親王が攝政として、萬事にあたることゝなりました。さうして愈〻改革の歩を進めることゝなり、日本にならつた内閣も出來上りましたが、前申すやうな、秘密の改革者の運動も、一方ではます〳〵盛となつて來たのです。

黄龍旗を倒して

かういふ時に支那の國民の中には、前申したやうな、外國人がとつた租借地や、鐵道や鑛山についての權利を、取り戻さうとする利權回收の運動が、烈しくなつて來ました。初め支那人は鐵道の便利なことなどは分らず、之れを邪魔したことも少くないのです。支那で一番はじめに出來たのは京奉線（奉天と北京との間を通つて居ます）の一部で、イギリス人が大へんな骨折でやつたのですが、いよ〳〵開通といふ場合に、どうしても機關車を用ゐることを許さない。仕方なしに馬をつけて、ひつぱらせたといふお話のやうなお話があります。また南方では、汽車が通じたとき、二三人をひき殺した事件がもとで、土地のものが御苦勞にも、汽車を海まで棄てに行つたといふ、まるでお伽話のやうな事もあつたのです。

然し汽車の便利なことが分ると、方々に之れをしくといふこと

になり、政府でも民間でも、盛に鐵道のもくろみを立てました。さうしてその資本は、多く外國から借入れましたから、外國はこれによつて其の勢力を增し、此の貸しつけの多いものほど、支那で勝手がきくやうにもなりました。

清政府は苦しい財政をやりくりするためには、外國から金を借りなければならない。その借金のためには抵當が必要です。鐵道の權利などは、その一番いゝ抵當物だつたのです。それで民間でやつてる鐵道を、買ひ上げて國有にし、さういふ必要のときに利用しようと考へました。かうした政府の計畫に對しては、前にいつたやうな、利權回收の熱が强くなつて來たときでしたから、民間には反對の聲が强くなりました。殊に四川省ではそれが烈しか

つたのです。

政府がかういふ反對を抑へつけるために、湖北省の武昌の軍隊をさしむけることにし、之れに動員令を下しました。その爲め、人心が騒ぎ立ちましたのをいゝ機會と、革命黨は、その軍隊に一味のものを入れて、一九一一年（宣統帝の宣統三年、明治四十四年）の十月十日に黎元洪を首領として、とう〳〵革命の火ぶたを切りました。

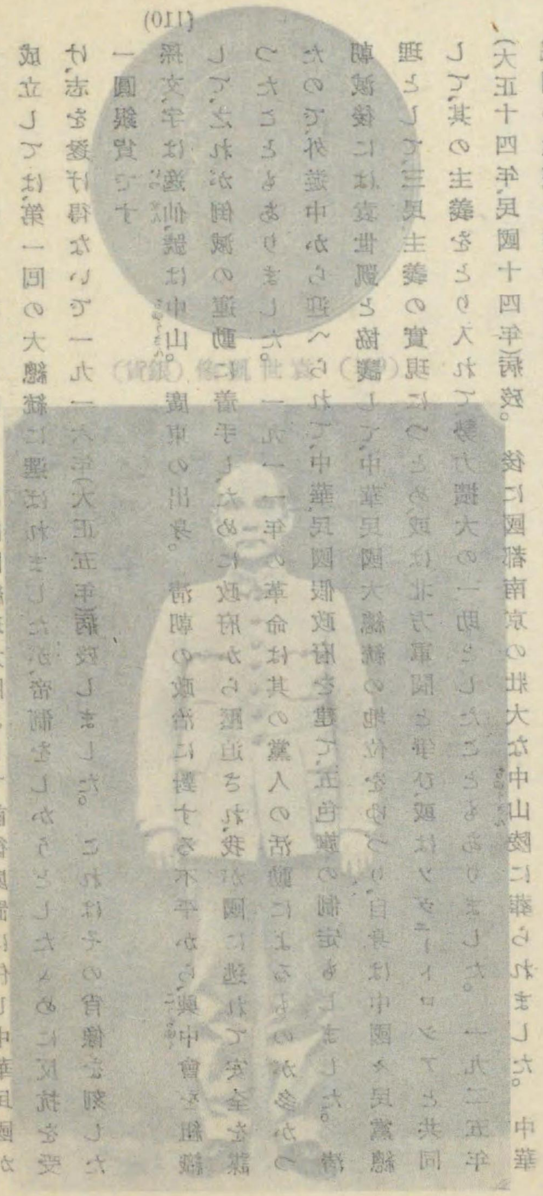
清政府は革命軍の旗あげを見て、袁世凱を總理大臣として萬事をまかせ、この動亂を鎭定させようとしましたが、各省は革命軍に味方する者が多くて、政府はだん〳〵苦しい立場に陷りました。かくて革命軍は、次第にその勢力をのばして、翌年一月一日には興中會の首領の孫文は、南京に首府をさだめ、共和主義の中華民國を

建てゝ臨時大總統となり、五色旗を國旗としました。

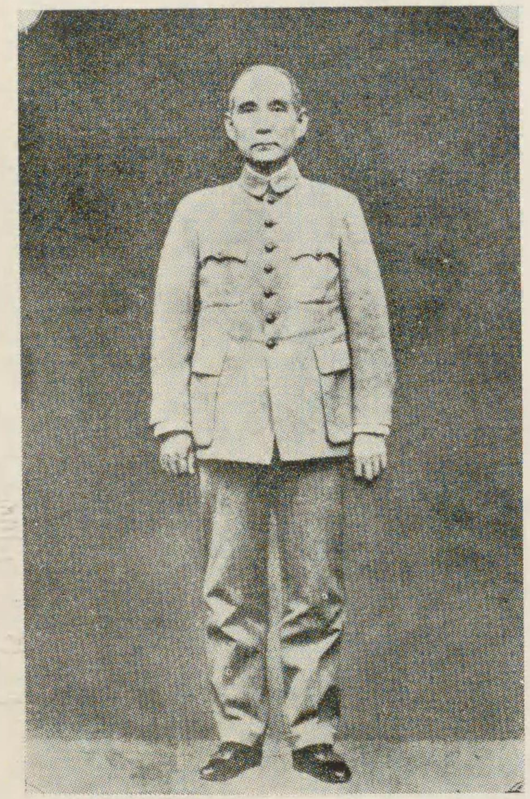
かういふ有樣なので、日本やイギリスなどは、この二つの政府の間の仲なほりをすゝめ、休戰をさせました。それで南北の代表者の談判が、始りましたが、清政府の方が、だん〴〵都合わるくなり、度度の御前會議の結果、つひに清の皇帝は位を退き、支那は共和政治を行ふことゝなりました。

それで一九一二年二月、宣統帝は、皇帝の尊號と年金とを受けて位を退き、三月十日には袁世凱が、南北を統一した中華民國の假大總統の職につきました。さうして國會その他いろ〳〵の準備が出來て後に、十月十日、袁世凱は正式に大總統に選ばれました。

清の國旗の黄龍旗は倒されて、孫文のきめた五色旗が國旗とな



(109) 袁世凱像（銀貨）



孫文 (110)

(109) 袁世凱は河南の出身。李鴻章に見出されて、廿數歳の少壯のとき、朝鮮に代理公使として駐在し、日清戰爭直前の我が國との交渉に當り、後累進して直隷總督等の要職に就いた人。清末の革命に際しては、內閣總理大臣として前後處置に任じ、中華民國が成立しては、第一回の大總統に選ばれましたが、帝制をしかうとしたゝめに反抗を受け、志を遂げ得ないで一九一六年(大正五年)病歿しました。これはその肖像を刻した一圓銀貨です

(110) 孫文、字は逸仙、號は中山。廣東の出身。清朝の政治に對する不平から、興中會を組織して、之れが倒滅の運動に着手し、ために政府から壓迫され、我が國に逃れて安全を謀つたこともありました。一九一一年の革命は其の黨人の活動によるものが多かつたので、外遊中から迎へられて、中華民國假政府を建て、五色旗の制定もしました。清朝滅後には袁世凱と協議して、中華民國大總統の地位をゆづり、自身は中國々民黨總理として、三民主義の實現につとめ、或は北方軍閥と爭ひ、或はソヴエートロシアと共同して、其の主義をとり入れて、勢力擴大の一助としたこともありました。一九二五年(大正十四年、民國十四年)病歿。後に國都南京の壯大な中山陵に葬られました。中華民國の主權を握つてゐる、現在の國民政府は、共產主義は一掃しましたが、孫文の後をつぐもので、すべて孫總理の意志をうけるものといつてゐます。

りました。この五色旗は五族共和(ごぞくきょうわ)といふことをあらはしたものです。五族とは漢民族、滿洲民族、蒙古民族、西藏(チベット)民族、回部(くわいぶ)民族(トルコ)等、支那を形づくつて居る五つの民族のことで、此の旗は、かういふ五民族が一致(いち)して、國家をかためて行かうといふ意味を、現はしたものであります。十月十日(革命の起つた日)は雙十節(十月十日で十が二つあるから)として、建國記念日(こくけいじつ)と定めました。この日は或は國慶日とも申します。

一三 五色旗と青天白日旗

——現在の支那——

看板のぬりかへ

かうして共和國は出來、五色旗は國旗となり、辮髪はだん〳〵なくなつて、西洋風の頭になりましたが、多くの政治家の頭は、すぐには新しくはなりませんでした。野心家の袁世凱は、やがて國會を解散して、自分に都合のいゝ、勝手な政を始め出しました。また其の子分の官吏や軍人は、自分の親分が、國會などから、動かされ易い大總統で居るよりも、もつと安全らしい地位に、をさまつてもらひ

たいと思ひます。それで今度は袁世凱を皇帝にしようとする運動が、起つて來ました。揚子江の上流からは、龍の骨が現はれた——これは袁總統が皇帝となれるといふ、天のお告げであるとか、北京の空には、めでたい雲がたなびいた——これは袁世凱の前途をことほぐ、天のしらせであるとか、むかし王莽の時にいはれたやうなことが、二十世紀にもまた、盛に宣傳されました。そこで一九一五年には、皇帝卽位の準備をさせ、年號も洪憲とするとか、卽位式は天壇——天子が天の神を祭る祭壇で、北京にあります——で、行ふなどといふ手筈が、定められました。

民國になつたばかりで、其の大總統が、こんな考をもつて居るのですからたまりません。一方にはあくまで共和主義を主張する

ものは、勿論これに反對します。我が國もそんなことをしては、國内がまた〳〵亂れるから、やめたらよからうと忠告しました。表むきは御もつともです、帝政にはしませんといつて、わが國の忠告をきゝながら、實際はやめるどころか、どし〳〵實行にとりかゝらうとしましたから、まづ反對の旗あげが雲南省に起り、南方の各省は、だん〳〵之れに應じてまゐりました。

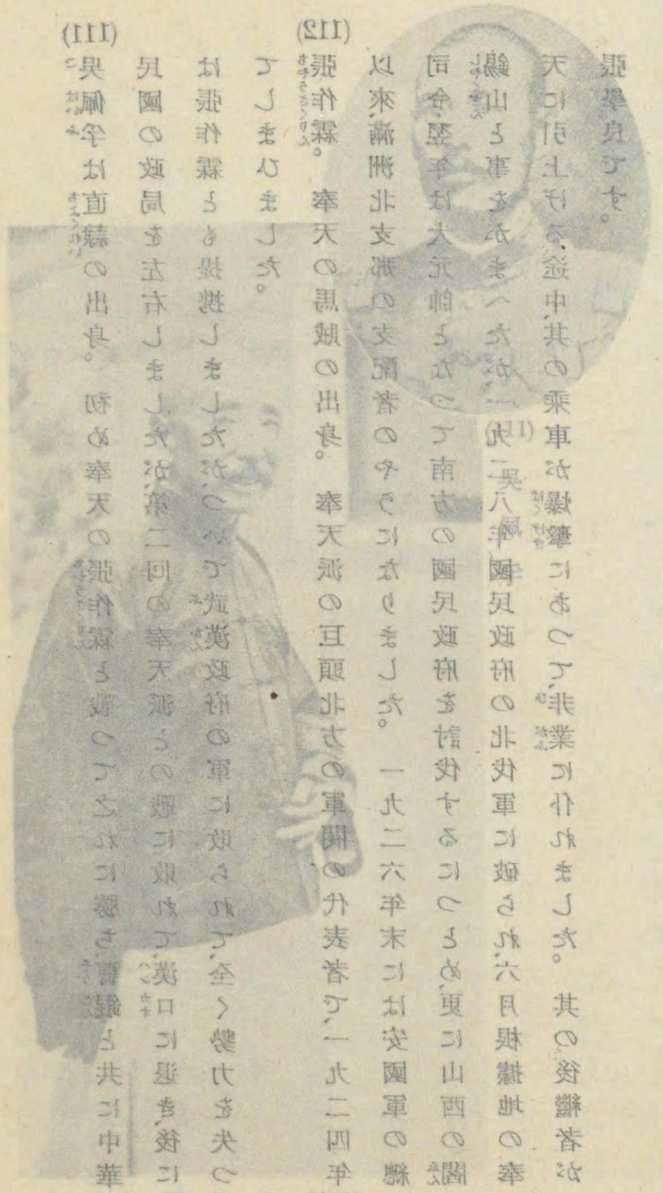
袁世凱は兵を出して、之れを平定しようとしましたが、なか〳〵うまく行かず、それやこれやの心配がもとゝなつたのでせう、その亂のまだをさまらない、一九一六年（大正五年）六月、とう〳〵袁世凱は病死しました。あとには副總統の黎元洪が、大總統になつて、帝政を行はうとした者どもを處分して、またしつかりと、共和政治をつゞけることゝしました。

その頃はもう已に世界大戰が、盛になつて來たときでしたが、聯合軍の方では、中立國であつた支那をも、味方に引入れようとする、それについて支那政府では、意見が一致しない。それでまた南方は、北方から分れて、廣東で獨立を宣言する。さういふ騷に乘じて、張勳といふ人は、軍隊をひきゐて北京に入り、さきに退位した宣統帝を、また皇帝の位に卽け、民國の五色旗を倒して、昔の黃龍旗をかかげました。然しそれは七日天下でまけてしまひ、また五色旗がうち立てられました。

こんな騷ぎで、大總統も代はりました。

霧中の微光

南と北とに分れて、爭ひがまた始められましたが、南はあくまで共和主義の理想でもつて、北方の武力主義の政治に、反對したのです。ところが其の北方でも勢力爭ひがあつて、いろ〳〵な黨派が、お互のすきをねらふといふ有樣でした。その中の安福派の親分の段祺瑞と、直隷派の曹錕、吳佩孚といふ將軍たちとが、まづ戰爭をして、段祺瑞がまけとなりました。そのあとは奉天派の張作霖と、此の直隷派との爭ひとなり、一九二二年（民國十一年大正十一年）の戰爭では、直隷派が勝ちましたので、これから直隷派が政治上の實權を握り、翌年には、とう〳〵曹錕が大總統の地位を占めました。



(111) 吳佩孚

(112) 張作霖。奉天の馬賊の出身。奉天派の巨頭北方の軍閥の代表者で、一九二四年以來、滿洲北支那の支配者のやうになりました。一九二六年末には安國軍の總司令・翌年は大元帥となつて南方の國民政府を討伐するにつとめ、更に山西の閻錫山と事をかまへたが、一九二八年國民政府の北伐軍に破られ、六月根據地の奉天に引上げる途中、其の乘車が爆撃にあつて、非業に仆れました。其の後繼者が張學良です。

霖作張 (112)

(111) 吳佩孚は直隷の出身。初め奉天の張作霖と戰つて之れに勝ち、曹錕と共に中華民國の政局を左右しましたが、第二回の奉天派との戰に敗れて、漢口に退き、後には張作霖とも提携しましたが、ついで武漢政府の軍に敗られて、全く勢力を失つてしまひました。

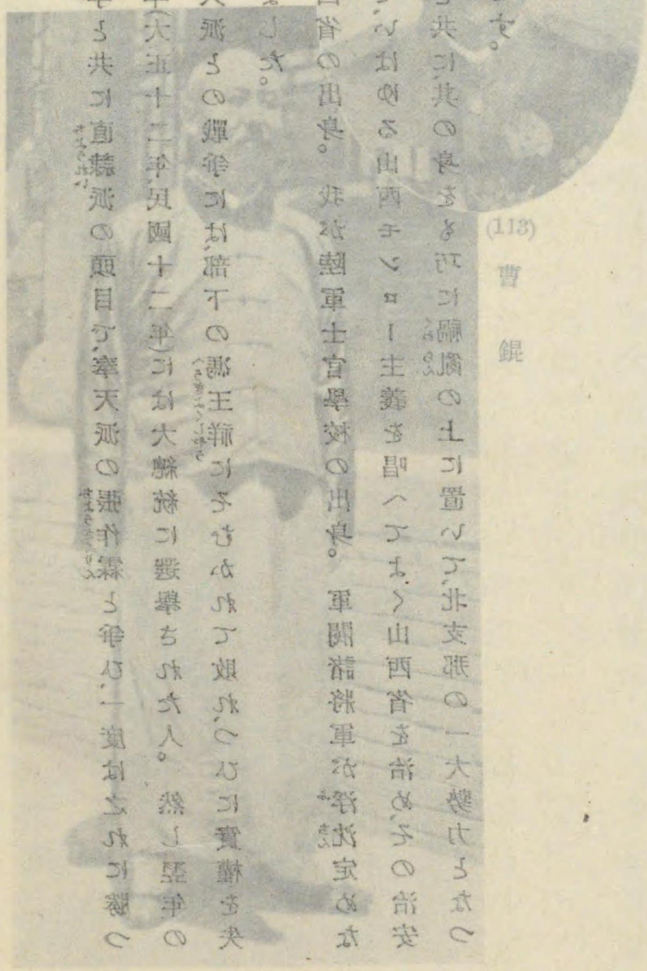
(112) 張作霖。奉天の馬賊の出身。奉天派の巨頭北方の軍閥の代表者で、一九二四年以來、滿洲北支那の支配者のやうになりました。一九二六年末には安國軍の總司令・翌年は大元帥となつて南方の國民政府を討伐するにつとめ、更に山西の閻錫山と事をかまへたが、一九二八年國民政府の北伐軍に破られ、六月根據地の奉天に引上げる途中、其の乘車が爆撃にあつて、非業に仆れました。其の後繼者が張學良です。

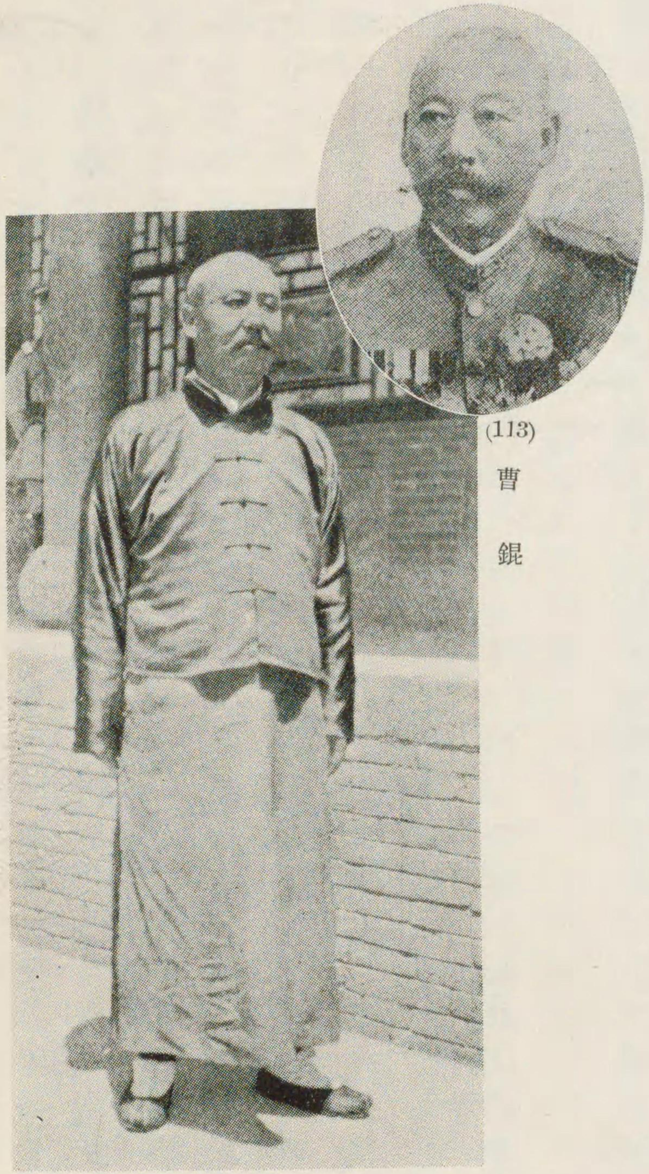
かういふ直隷派の勝利の時に、段祺瑞や張作霖は、今までの敵ともいふべき、南方の孫文と握手するやうになりました。かくて一九二四年（民國十三年大正十三年）九月には、第二回の奉天、直隷二派の爭ひが起りました。その戰爭中に吳佩孚の部下で、クリスチャンジェネラルなどといはれて、西洋人には大そう人望のあつた、馮玉祥といふ大將が、吳佩孚に反し、急に北京を圍んで、曹錕を捕へ、その上さきに退位して、もとの宮城に居た宣統帝をも、一平民として宮城から追ひ出しましたので、十月直隷派は總くづれとなり、奉天派が勢を得ました。そこで馮玉祥、段祺瑞、張作霖等は、天津に集つて相談の結果、一まづ大總統を廢し、臨時執政政府といふものをたて、段祺瑞を臨時執政として、萬事の政をまかせることゝしました。これには孫文も同

意し、一九二四年十一月には、共同して宣言書を出しました。

さてこの曹錕について一つの面白い話があります。支那の芝居には、罵曹劇といつて、魏の曹操（九〇頁参照）の悪口をしくんだものが、幾つもあります。ところが曹錕が大總統になつて間もなく、「さういふ芝居は一切やること相成らん」といふおふれを出しました。それは自分が曹操と同じく、曹といふ姓ですから、その曹操がひどい目にあつたり、馬鹿にされるのを、氣に病んだのでありませう。然しその心配は事實となつて、一時は獄の中にとらはれの身を嘆いたとは、氣の毒にもをかしい話ではありませんか。

それはさておき、新たに出來た執政政府に對しては、孫文の部下はぢきに反抗する、一九二五年三月（民國十四年大正十四年）孫文がなくなると、また





(113) 曹錕

山錫閻 (114)

意し、一九二四年十一月には、共同して宣言書を出しました。

(113) 曹錕は吳佩孚と共に直隷派の頭目で、奉天派の張作霖と爭ひ、一度は之れに勝つて、一九二三年（大正十二年、民國十二年）には大總統に選擧された人。然し翌年の第二回の奉天派との戰爭には、部下の馮王祥にそむかれて敗れ、つひに實權を失つてしまひました。

(114) 閻錫山は山西省の出身。我が陸軍士官學校の出身。軍閥諸將軍が浮沈定めなき間にあつて、いはゆる山西モンロー主義を唱へてよく山西省を治め、その治安を維持すると共に、其の身をも巧に禍亂の上に置いて、北支那の一大勢力となつてゐる將軍です。

廣東では、北方に反對する政府をたてました。　かういふ内輪の勢力爭ひと、外は面倒な外國との政治的經濟的關係とで、中華民國は、多くの困難と危險とに惱んだのであります。

たゞ一九二一、二年（大正十十一年）のワシントン會議以來は、諸外國の支那に對する態度が少しはおだやかになり、今までは勝手なまねをして居たのを、少しは差控へるやうになつて來ました。それで此のワシントン會議の決議によつて、一九二五年（大正十四年）には、諸外國の代表者が北京に集つて、關稅特別會議、その翌年初には、治外法權會議が開かれました。どこの國でも、外國からの輸入品には、その國で任意に課稅することが出來るのですが、支那は自分でそれをきめることが出來ず、一々關係ある外國の同意を、得なければならない

といふことや、また自分の國内に、外國人の租界(居留地)といふものを許して、其の場所には支那の法律を行ふことが出來ないといふことなどを、條約できめられて居たのです。かういふへんぱな約束に、多少でも改正をしようといふのが、此の會議の目的でした。

これは濃い霧の中にも、民國の前途を示してくれる、ほのかな光ともいへるものでありましたが、それもやがて國内の動亂のために、中止となつてしまひました。もつとも、かうした諸外國の態度で、國民は次第に自國の地位を覺るやうになり、その地位を高めようとする運動——不平等條約の破棄とか、帝國主義打倒とかいふ叫びが、非常に盛になつて來ました。

國恥紀念日

さてかういふ支那の事情のとき、我が日本との關係は、どうかといふことを一言しておきませう。今までの話で、我が國が支那との關係の深い歴史をもつたことの、幾分はお分りでしたらう。それなら最近のことはどうだらうか。

十九世紀の末から、日清戰爭、日露戰爭それから世界大戰といふ三つのめざましい戰爭が、一くぎり一くぎり、我が日本と支那との關係を、變らせて行きました。其の戰爭の度毎に、我が國の世界に於ける地位は、高まりましたが、支那は之れに反して、だん〳〵其の勢を失ひました。

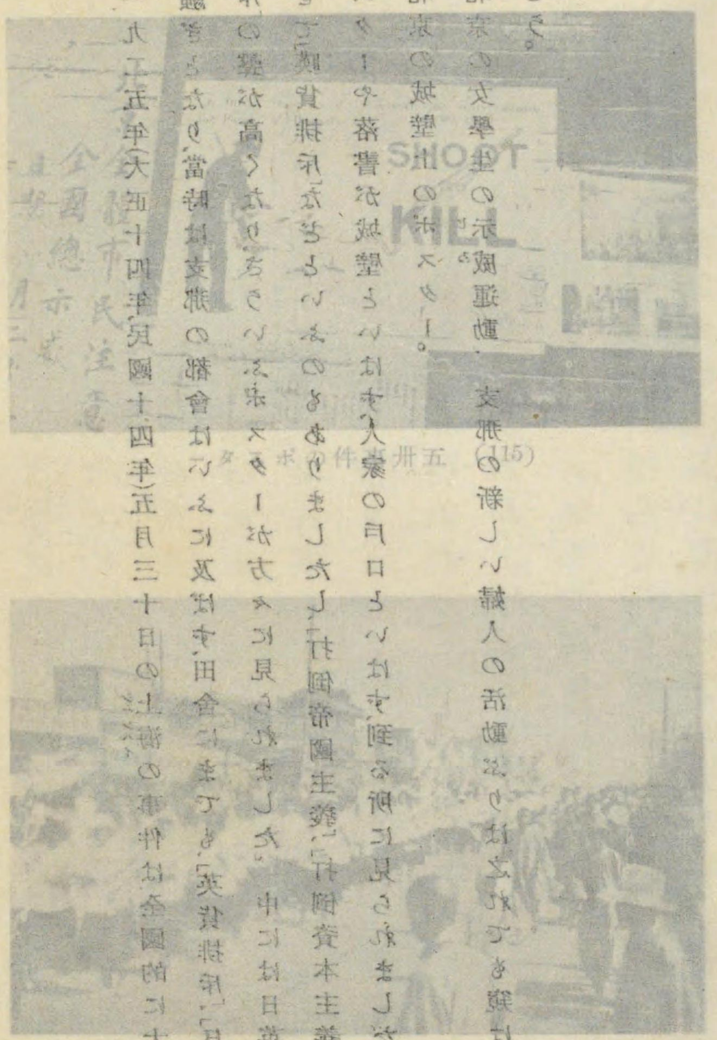
支那の政府がよわく、貧乏であつて、國内をよく治めることが出來ないので、いろ〳〵の禍の種が芽をふきます。それを諸外國はいゝことにして、勝手なことをする。我が國はさういふ西洋諸國から、支那の危險を救ふことにもつとめましたが、又それについては、我が國の支那に於ける權利を、しつかりして置かなければ、ならなかつたのであります。

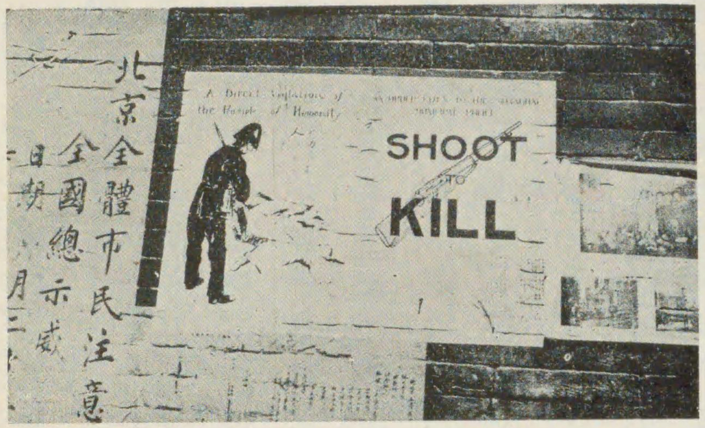
世界戰爭に加はつた結果、わが國は一九一四年大正三年十一月ドイツの租借地の青島を占領して後には、かういふ事情と共に、この青島や、前から關係のあつた滿洲、蒙古についての、政治上、軍事上の問題や、その他には經濟上の事件などを取りきめようと、翌年一月に、五項二十一箇條の要求を、支那政府に送りました。それから二十數回の談判がありまして後、支那は我が國の出した最後の申出でに對し、五月九日に承諾の返事をしました。これが支那人がやかましくいふ二十一箇條問題の起りなのです。後にはこの五月九日を國恥紀念日（また最後の要求を申送つた五月七日のこともいひ、なほこれを五七紀念日、五九紀念日ともいひます）といつて、毎年この日には、學校や工場などは休みにして、日本排斥のいろいろの會合などを開くことゝなりました。

二十一箇條の始めの要求の中には、支那人には迷惑のこともありましたらうが、實際の條約となつたときには、さういふ個條は或は除かれ、或は後日きめようといふことになり、更にそれはワシントン會議の折、青島についてのとりきめと一しよに、すつかり取消しとしました。だから今日では二十一箇條といふものは、意味が

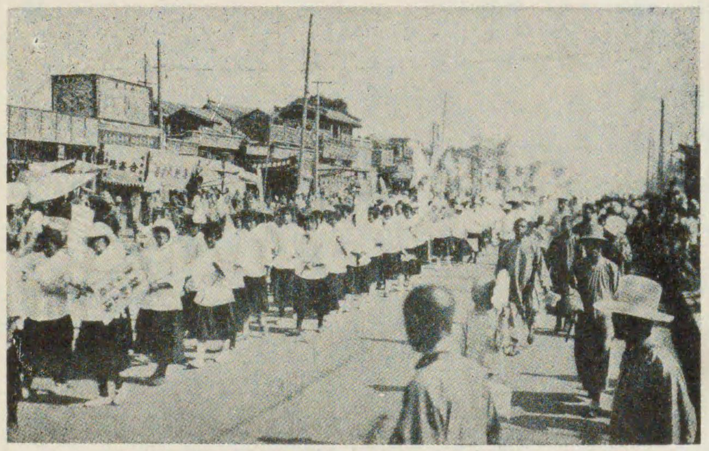
なくなつたといつてもいゝのです。それをさう騒ぎ廻つて、日本をわるくいふのは、弱者のひがみからであります。然し前申したやうな、卅年も前に戰に勝つたことから、やたらに支那を弱い者とし、弱い者だからいぢめても、馬鹿にしてもいゝといふ考が、とかく私ども日本人にはありはしないでせうか。かういふひがみと弱い者いぢめをやりつこして居ては、お隣り同士でありながら、仲のいゝおつきあひはむづかしいのです。

其の後いろ〳〵の事がありましたが、一九二五年（大正十四年）には、上海（シャンハイ）にある日本の紡績（ぼうせき）工場のストライキがもとで、五月には同地の學生が、騒動を起すに至りました。此のとき上海の居留地の警察權を握つて居る、イギリスの巡査が、其の取締りのために、群衆に發砲





(115) 五卅事件のポスター



(116) 同上女學生の示威運動

(115)(116)一九二五年（大正十四年、民國十四年）五月三十日の上海（シャンハイ）の事件は、全國的に大きい騒ぎとなり、當時は支那の都會はいふに及ばず、田舎にまでも、「英貨排斥」、「日貨排斥」の聲が高くなり、さういふポスターが方々に見られました。中には日英を私合せて「暎貨排斥」などといふのもありましたし、「打倒帝國主義」、「打倒資本主義」のポスターや落書が城壁といはず、人家の戸口といはず、到る所に見られました。仲の(115)は北京の城壁上のポスター。

(116)は北京の女學生の示威（デモ）運動、支那の新しい婦人の活動ぶりは之れでも窺はれませう。

にある日本の紡績工場のストライキがもとで、五月には同地の學生が、騒動を起すに至りました。此のとき上海の居留地の警察權を握つて居る、イギリスの巡査が、其の取締りのために、罪衆に發砲

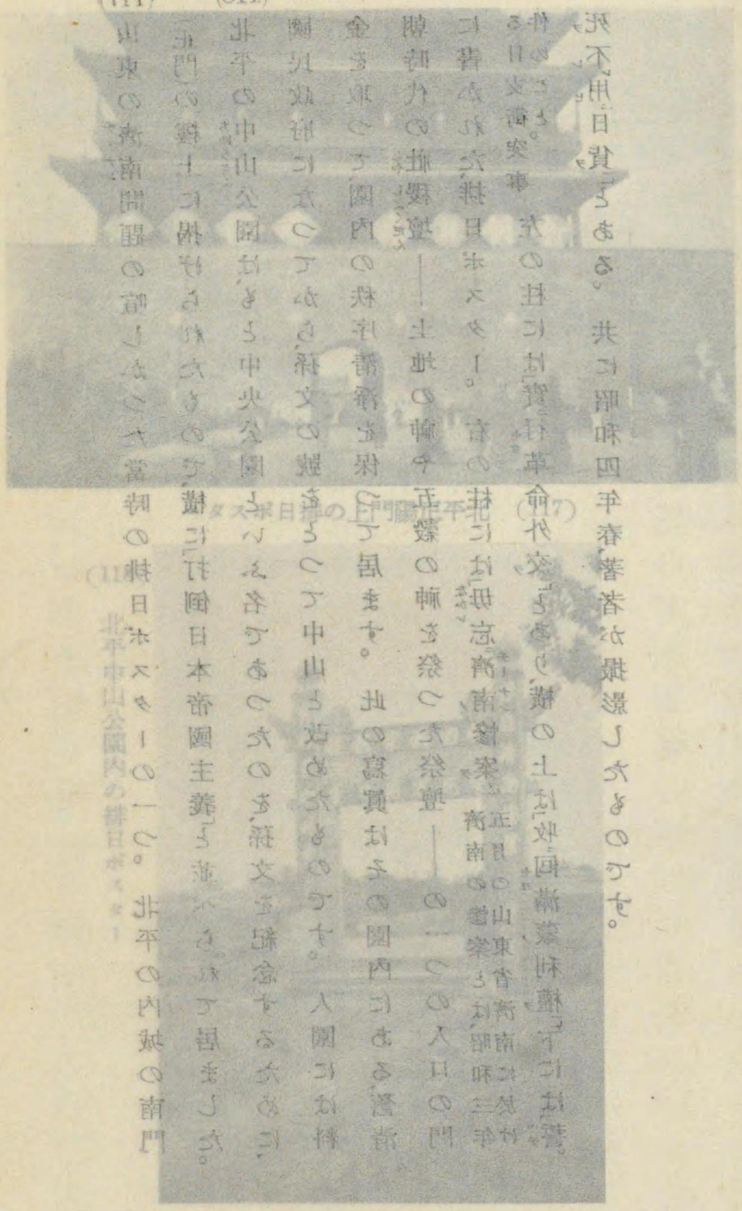
して、死傷者を生ぜさせました。之れを見てまづ上海に、日本とイギリスに對する烈しい排斥運動が起り、それは全國に及んで、一時は非常な騒となりました。此の事件は五月三十日に起りましたから、「五卅（ごさんじふ）」事件といふ名で呼ばれて居ます。これはやがて下火となり、殊に日本排斥の聲は、次第に薄らぎました。

ところが翌々一九二七年（昭和二年）になりますと、次にいふ國民黨（こくみんとう）軍の北上につれて、山東省在留の我が國人の保護の必要から、我が國が同地へ出兵したゝめ問題が起り、翌年五月には濟南（チーナン）（山東省省城）で日支兵の衝突が始まりました。これがためまた〳〵烈しい排日運動が、全支那にまき起されました。かうした事件が、また五月であつたことも、ちよつと妙な氣がするではありませんか。

此の時もやはり例の二十一個條問題や、旅順、大連の取戻しなどが持ち出されました。此の排日運動はかなり激烈で、北平（今までの北京を北平と改めました。）の舊皇城の正門天安門には、排日の大ポスターが掲げられ、日本の商品を賣買するものには私刑を加へるといふ有様でした。其の後も排日の運動は止まずに、チヨイ〳〵起ります。さうしていつも我が日本を、侵略主義の野心國として攻撃し、殊に學生などが、其の運動の先鋒をつとめて居ました。

青天白日旗

前にいつたやうに、孫文の死んだあと、廣東では國民黨が、北方に反對する結束を堅めたが、それにはロシヤの共產黨と握手した、支



（空）

ータスポ日排の上門陽正平北　(117)

(118)

北平中山公園内の排日ポスター

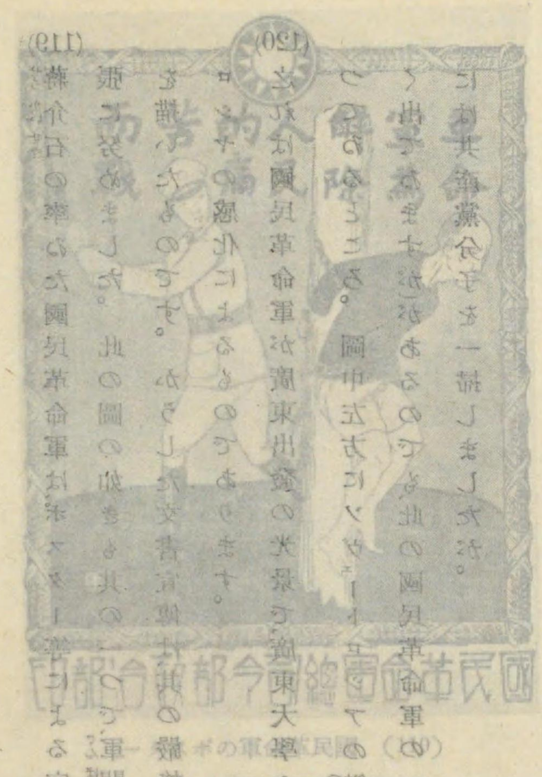
(117)山東の濟南問題の喧しかつた當時の排日ポスターの一つ。北平の内城の南門（正門）の樓上に掲げられたもので、横に「打倒日本帝國主義」と並べられて居ました。(118)北平の中山公園は、もと中央公園といふ名であつたのを、孫文を紀念するために、國民政府になつてから、孫文の號をとつて中山と改めたものです。入園には料金を取つて、園内の秩序清淨を保つて居ます。此の寫眞はその園内にある、舊清朝時代の社稷壇――土地の神や五穀の神を祭つた祭壇――の一つの入口の門に書かれた排日ポスター。右の柱には「毋忘濟南慘案」濟南の慘案とは、昭和三年五月の山東省濟南に於ける日支衝突事件のこと。左の柱には「實行革命外交」とあり、横の上は「收回滿蒙利權」下には「誓死不用日貨」とある。共に昭和四年春、著者が撮影したものです。

那の共產黨の勢力が、だんだん强くなつて來ました。ロシヤは已に孫文の居た時から、廣東政府の政治軍事の顧問に、自分の國人を入れさせましたが、かういふ有樣になつては、一層その活動を盛にさせ、一方には馮玉祥にも軍資を貸して、張作霖等に當らせました。それで一九二五年末には、張作霖は、馮玉祥と同盟した部下の將軍鶴松齡にそむかれ、戰敗れてその本城の奉天も、一時は危くなりました。然しやつと之れを平げ、ついで馮玉祥の軍をも破つて、勢力をもり返し、以前にまさる力をもつやうになりました。吳佩孚との仲直りも出來るし、北方のことは、張作霖を中心に動くやうにも見えました。

かういふ時に、南の廣東政府は國民革命軍を組織し、青天白日旗

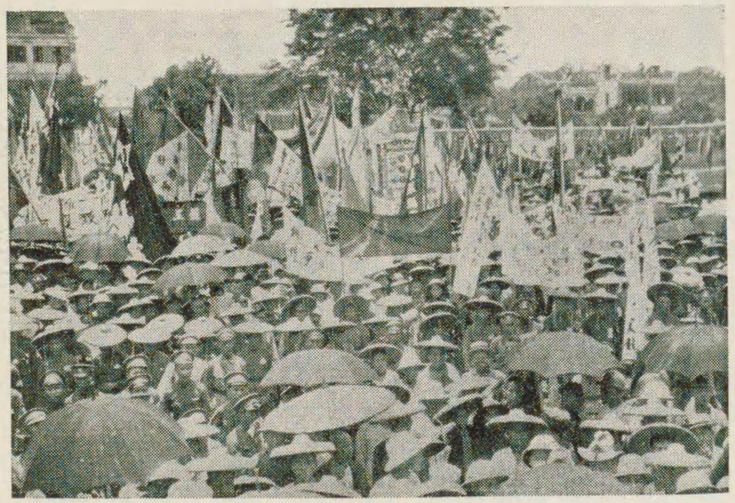
をかゝげて、北伐の途に上りました（一九二六年六月。）この軍隊は内は張作霖や吳佩孚、その他の北方の武將連を倒して、國民を其の壓制から救ひ、外は支那を侵略する諸外國の勢力を斥け、正義によつて對等の條約を結び、支那の國家的地位を高めることを理想としました。その總司令官は蔣介石といふ人。此の青天白日旗の向ふところ敵なく、忽ちに漢口、武昌を占領し、殊に漢口ではイギリスの租界を奪ふにも至りました。

之れを見て北方の將軍は、南方がロシヤの手先となつて、支那を危くするから、それを倒して國家を安泰にするといふので、張作霖が中心で安國軍を組織することゝなりました。然し初めは安國軍は旗色がわるく、一九二七年（昭和二年）春には、南京も國民軍の手に落ち



（120）國民革命軍の廣東出發

ータスポの軍命革民國 (119)



發出東廣の軍命革民國 (120)

(119) 蔣介石の率ゐた國民革命軍は、ポスター等による宣傳を盛にして、其の勢力の擴張に努めました。此の圖の如きも其の一つで、軍閥壓制の下の人民の救苦解放を描いたものです。かうした文書宣傳は、其の嚴格な軍事教練と共に、ソヴェートロシヤの感化によるものであります。

(120) これは國民革命軍が廣東出發の光景で、廣東大學々生が、旗さし物、仰々しく見送界をつつてゐるところ。圖中左方にソヴェートロシアの鎚と鎌と星の赤旗(寫眞では黒く出てゐますが)があるのでも、此の國民革命軍の一要素がお分りでせう。——後には共產黨分子を一掃しましたが。

（ここに南京國民政府がたてられ、蔣介石が首領として萬事を執り行ひました）、ついで山東省の南部も侵される。また安國軍の味方でも、ぼつぼつ國民軍に旗をかへるものも出來、ことに山西省の閻錫山が、南方と好を通じたことは、北方の一打撃でした。がまた南方でも、南京の蔣介石等と、漢口によつた將軍連（それを武漢國民政府といひます）とは、お互を僞政府といつて、仲間割れをやり始めるといふ有樣。その勝敗のをさまりは、なか〳〵つきません。その中に安國軍は、山東から國民軍を擊退する。南方の仲間喧嘩は大きくなる。のみならず其の重立つたものは、續いて外國にのがれる。蔣介石の如きも八月には、一時南京政府の要職を退きました。

かうした動搖に先つて、安國軍は北京にあるロシヤの大使館が、

支那に騒動を起させる、陰謀の中心をなすといふことを知つて、急に之れを襲つて多くの秘密書類を取押へ、ロシヤと絶交するといふ勢を示したり、張作霖が大元帥となつて、萬事を執り行ふといふこともやりました。

それなら、これで南方の國民政府は、安國軍にやられてしまつたかといふと、決してさうではありません。其の南方の二政府の間には妥協が成り、十月一九二七年には南京新政府が成立して、北伐の計畫が進められました。それで翌年一九二八年四月、また蔣介石は北伐總司令として、張作霖その他へ宣言を發し、其の國民革命軍は、山東に張宗昌の兵を破り五月。日支兵が濟南で衝突したのは此の時です　ついで北京を衝かうとしました。

かゝる形勢を見て、張作霖は自分の根據地の奉天に引上げるこ

(121) 蔣介石と馮玉祥

馮玉祥はもと直隷派に屬しましたが、一九二四年の第二回奉直戰爭のとき、吳佩孚曹錕等にそむいて國民軍を組織し、政局に大變化を起させた將軍。廢帝宣統帝を北京の皇城から逐つたのも此の人です。後に張作霖の軍と戰つて敗れ、ロシヤに逃れロシヤの後援によつて、一時また活動を始め、或は南方政府に接近したり、或は山西の閻錫山と握手して張作霖に當り、一大動搖を起さうとしました。國民政府成立の後には、一時その要路にも立ちましたが後また分れて之れと爭ひ、最近にはまた之れと握手するやうになりました。馮玉祥はキリスト教を奉じて、其の部下の軍隊をも、その戒律等で取締つたので、西洋人は彼れをグリスチヤン・ジェネラルなどゝ一時大いに稱揚したことがありました。

蔣介石はもと孫文の祕書で最も信任された人。ロシヤに行つて其の軍隊を調査し、歸つてから三民主義を以て主義とする軍隊を組織し、北方の將軍を驚かす大勝利を得させた人。後に共產主義と爭ひ、その軍隊も政府も三民主義の理想でかため、眞に支那人の支那を救ふと主張しましたが、一九二七年八月には、一時その地位をすて日本に來遊しました。ついで形勢が變つたので再び歸國し、つひに北伐に成功して國民政府を建設し、南京に奠都して、支那の統一的政治を始め、推されてその政府の主席となり、政兵の權を握つて活動してゐます。此の圖は北伐に成功して、馮玉祥を迎へたところ、今の中華民國の國旗青天白日旗は、初め此の北伐に際して制定した旗です。

とを得策と考へ、六月、北に歸らうとしましたが、途中で其の汽車が爆破されたゝめ、非業の最後を遂げました。彼れの死は政局に一大變化を與へたもので、今まで軍閥と呼ばれて居た連中の多くは、南京政府と妥協し、國民革命軍は、堂々と北京に入城しました。

雲間の白日

いま申しましたやうに、國民革命軍は、一九二八年（昭和三年）六月に、北京に入りますと、まづ内外に對して、中華民國の統一政府の樹立したことを宣言し、内には内政の整頓を企て、外には今までの外交上の權利義務を引きつぐことも聲明しました。まだ多少の反抗もありましたが、大體これで南北は合一され、南京を中華民國の首府と

し、今までの五色旗に代へて、其の青天白日旗を、國旗とすることを定めました。北京を北平と改めたのも此の時です。

此の新しい國民政府は、孫文逸仙の建てた中國國民黨といふ政黨を中心とし、其の黨派の主張する所は三民主義であります。それは民族主義、民權主義、民生主義をいふので、民族主義とは、支那民族を以て支配すること、民權主義とは、專制政治に反して、民意の尊重に政治の本を置くこと、民生主義とは、人民の生活安定を主眼とした、經濟策の主張であります。此の主張によつて、蔣介石を主席とする政府の組織も出來上り、統一政治の實現にと努力を始めました。

此の間に滿洲では、張作霖の子の張學良が父のあとを受けて支配を始めましたが、國民政府の主權を認め、其の政府委員の一人としての地位を、占めることゝなりました。然し支那といふ國が、現在の普通の國家と違ふ所は、張學良がさうして國民政府の一員となりましても、たゞの官吏軍人とは違つて、滿洲では特別な權力を有つて居ることです。彼れは勝手に軍隊も動かせる、稅金も取ることが出來る、紙幣を發行することも、すべての政治を氣儘に行ふことが出來るといつたやうに、まるで昔の大名そのまゝな行動が、許されて居るといふ有樣なのです。それは許されて居ますし、又さうして居張學良ばかりでなく、山西省の閻錫山とか、河南省に居た馮玉祥とかいふ將軍たちも、同じく中央政府の委員であつて、同樣な權力を許されたのでした。それでかういふ將軍連は、中央政府に對して

は、時に味方となり、時に敵となる態度を示して、いつも自己の利益を謀るのです。がともかく、かうして國民政府成立後の二年ばかりは過ぎました。

一九三〇年（昭和五年）五月になりますと、閻錫山や馮玉祥等は聯合して、國民政府に反抗し、八月には北平（北京）に中華民國臨時政府といふものを立て、北方に一大勢力を作らうとしました。張學良は始め此の騒動を傍觀するといふ風をして居ましたが、北上して來た國民政府軍の、旗色のいゝのを見て、和解に言葉をかりて、軍隊を南に下しました。そこで閻錫山は事の不利を察して、反抗を思ひ切り、山西の根據地に引き上げるし、馮玉祥もまたそれにつゞいて西方へ逃れてしまひました。それは九月のこと。閻錫山の其の時の口

實は「蔣介石が毒ガスを用ひて同胞を慘殺するのは、余の忍ぶ能はざるところであるから、余は三舍を避けて、人民を救ふの他はない」といふのであります。支那人の手前勝手なことは、こんな所にもよく見られます。

此の事件は、蔣介石と張學良とを、堅く結びつけたと共に、張學良の勢力を、北方に增大させたものでありました。かくて國民政府の基礎は、いよ〳〵堅くなりかけ、蔣介石はまるで獨裁君主のやうな地位を占めることゝなりました。それは此の戰後の會議の結果、蔣介石は國民政府の主席で、內閣總理大臣ともいふべき行政院々長となり、且つ陸海空軍總司令として、兵權をも總べることゝなつたからです。

ところがかうなると、禍は政府のなか、黨の内部から起りました。それは蔣介石が、自分に快からぬ胡漢民といふ人を拘禁したのを機會に、唐紹儀とか汪兆銘とか孫科（孫文の子）などいふ、何れも國民政府の重い役の人々は、廣東に臨時政府を立てゝ、蔣介石の罪を天下に通告しました。これが一九三一年（昭和六年）五月のこと。此の廣東の臨時政府との爭ひは、十月から十一月にかけて、一時は圓滿に解決しさうでしたが、結局うまく行かず、各〻が孫文の眞の精神を傳へる國民黨の政府だといひ張りました。

南京の國民政府にとつて、此の他にもう一つの厄介問題がありました。それは江西・湖北・湖南等に居る共產黨軍征伐のことです。共產黨軍を共匪といひます。支那には土匪、兵匪、學匪などいふ言葉があります。匪とは無賴なもの〻こと。學匪といへば、無賴な學生、不良學生の類です。此の地方の共產黨の根は、かなり前から蔓つて居たので、一九三〇年の末にも、大じかけな征討が加へられました。しかし其の結果は思はしくなかつたので、更に翌年の六月には、蔣介石みづから大軍を率ゐて、江西に向つて進擊しましたが、これもまた十分な成功は、收められずにすぎました。

其の上になほ例の古い將軍連も、すべてが弱つてしまつたといふわけでもなく、隙さへあればと、その隙を覗つて居るといふ有樣ですから、國內の安定といふことは、なか〳〵むづかしいものです。かういふ事實が、南京の國民政府の大きい問題となつて來たときに、滿洲で我が日本との衝突が起りました。これがもとで國內

の動搖が起り、殊に始めは反日を唱へてあばれた學生團は、後には却つて南京の國民政府のやり口を非難して、暴動化したことや、日本との關係が有利にならなかつたことなどから、十二月なかばには、遂に蔣介石は退職し、廣東政府の重立つた人々が、南京の國民政府の實權を握ることゝなり、張學良等の勢力も、一時は除かれました。しかし次にいふやうに、我が國との問題が、面倒になつて來た一九三二年昭和七年の初めには、蔣介石も張學良も、國民政府の要人として、活動を始めました。それにつれて支那の政局は、まだなか〳〵安定とはいへない狀態におかれて居ります。

青天白日旗の向つたところ、いつも其の旗じるしのやうに、朗らかにといふわけにも行かず、國民政府の前途には、內外の事情いづれからも、まだ〳〵多くの惱みが橫つて居るのです——重い暗い雲が、白日を蔽うて居るやうに。

無智の勇氣

いま申したやうな事件に先つて、蔣介石は北伐に成功したとき、とにかく統一を遂げ得たと信じましたので、內政の秩序を立てる一方では、直に注意を對外關係に向けました。すでに執政々府のとき、關稅や治外法權の問題について、列國との會議を開きました（二六三頁を見ること）、それは國內の騷亂のため中止となつたので、こゝに此の統一と共に再開することゝしたのです。しかもそれは誠に都合よく運んで、一九二八年昭和三年十一月には、まづ關稅自主といふことが、